

# 2025年11月期 決算説明資料

ニッケ グループ

2026年1月15日

ニッケ（日本毛織株式会社）

東証プライム市場 3201

# 2025年11月期 ハイライト



売上高・営業利益は5期連続の增收増益を達成、営業利益  
以下の各利益は過去最高値を更新

売上高 1,193.7億円 (前期比 3.4%増↑)

営業利益 **過去最高** 119.1億円 (前期比 2.3%増↑)

経常利益 **過去最高** 129.6億円 (前期比 7.2%増↑)

親会社株主に帰属する  
当期純利益 **過去最高** 90.9億円 (前期比 1.3%増↑)

ROE 7.1% (前期比 0.5pt減↓)

- |                                 |      |
|---------------------------------|------|
| 1. 2025年11月期 実績                 | P 4～ |
| 2. 2026年11月期 業績予想               | P18～ |
| 3. 資本コストや株価を意識した経営の実現<br>に向けた対応 | P23～ |
| 4. 参考資料 (ニッケグループについて)           | P42～ |

# 1. 2025年11月期実績



# 連結業績概要



産業機材事業や生活流通事業が好調に推移し増収増益  
2025.7.11公表の業績予想も営業利益以下の各利益で達成

2025.7.11公表

(単位:百万円)	実績			前期比増減		業績予想達成率
	2023/11月期	2024/11月期	2025/11月期	金額	比率	
売上高	113,497	115,438	119,377	3,938	3.4%	98.1%
営業利益	11,016	11,640	11,913	272	2.3%	105.4%
営業利益率	9.7%	10.1%	10.0%	-0.1pt	-	-
経常利益	11,634	12,098	12,967	868	7.2%	108.1%
特別損益	-261	-728	296	1,024	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	7,643	8,970	9,090	120	1.3%	113.6%
ROE	7.0%	7.6%	7.1%	-0.5pt	-	-

## セグメント別業績



2025.7.11公表

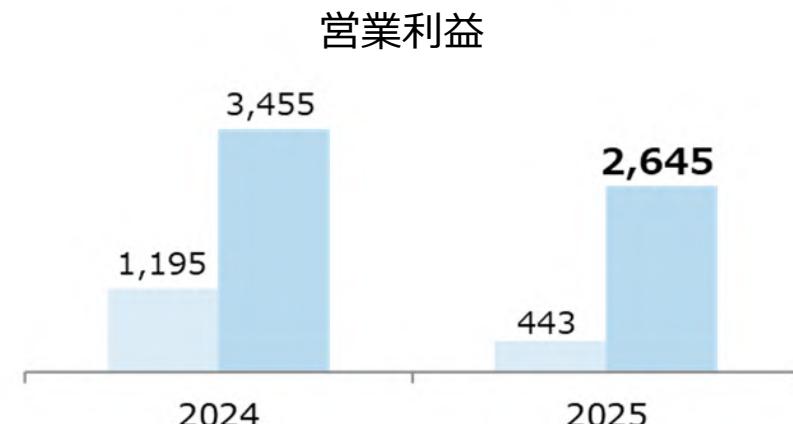
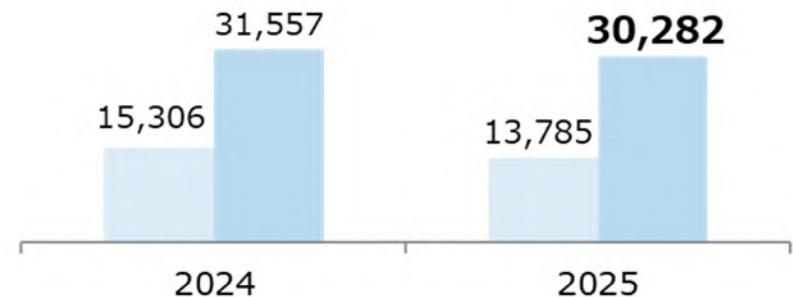
(単位:百万円)		2024/11月期	実績	前期比増減		業績予想達成率
			2025/11月期	金額	比率	
衣料繊維事業	売上高	31,557	30,282	-1,275	-4.0%	92.2%
	営業利益	3,455	2,645	-810	-23.5%	88.2%
	営業利益率	10.9%	8.7%	-2.2pt	-	-
	ROIC	6.5%	4.5%	-2.0pt	-	-
産業機材事業	売上高	30,836	35,177	4,341	14.1%	96.5%
	営業利益	1,972	2,875	903	45.8%	115.9%
	営業利益率	6.4%	8.2%	1.8pt	-	-
	ROIC	4.9%	6.2%	1.3pt	-	-
人とみらい 開発事業	売上高	26,488	26,679	191	0.7%	102.2%
	営業利益	6,977	6,772	-204	-2.9%	106.0%
	営業利益率	26.3%	25.4%	-0.9pt	-	-
	ROIC	20.1%	18.7%	-1.4pt	-	-
生活流通事業	売上高	22,527	23,199	672	3.0%	104.03%
	営業利益	847	1,051	204	24.1%	95.5%
	営業利益率	3.8%	4.5%	0.7pt	-	-
	ROIC	4.6%	6.3%	1.7pt	-	-
その他調整	売上高	4,028	4,038	9	0.2%	101.5%
	営業利益	-1,611	-1,432	179	-	-
合計	売上高	115,438	119,377	3,938	3.4%	98.1%
	営業利益	11,640	11,913	272	2.3%	105.4%
	営業利益率	10.1%	10.0%	-0.1pt	-	-
	ROIC	6.7%	5.6%	-1.1pt	-	-



# 衣料繊維事業

売上高 30,282百万円 前期比 ▲4.0%  
営業利益 2,645百万円 前期比 ▲23.5%

単位：百万円  
■ 中間 ■ 通期 売上高



## ＜業績概要＞

- ✓ 学校制服用素材は、販売先の在庫过多の影響で減収。
- ✓ 官公庁制服用素材は、消防向けが好調で増収。
- ✓ 一般企業制服用素材は、前期並み。
- ✓ 一般衣料用素材は、国内は減収も、欧米向けは販売が伸長し増収。
- ✓ ヤーン分野は、売糸は減収も、ニット関連は増収。

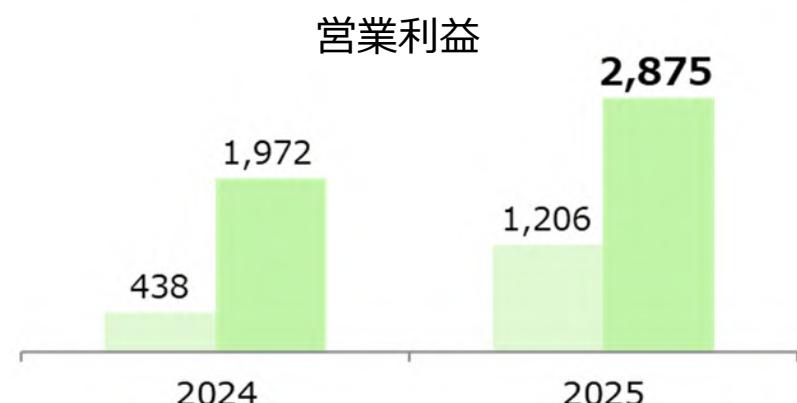
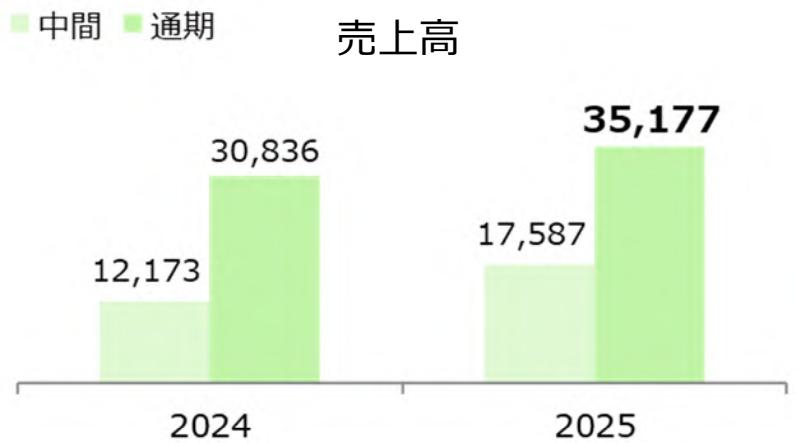


# 産業機材事業

ニッケ グループ

売上高 35,177百万円 前期比 +14.1%  
営業利益 2,875百万円 前期比 +45.8%

単位：百万円



## ＜業績概要＞

- ✓ 車両向け不織布等は、呉羽テックのグループ化が貢献し増収。
- ✓ FA事業は、車載電装品製造ライン向けが顧客の設備投資抑制により減収も、高利益率案件が寄与し増益。
- ✓ 環境・エネルギー関連資材は、カンキヨーテクノの売上が貢献し増収。
- ✓ ラケットスポーツ関連は、新商品が好評で増収。
- ✓ 楽器用フェルトは、中国向けの販売が低迷した前期との比較では増収。

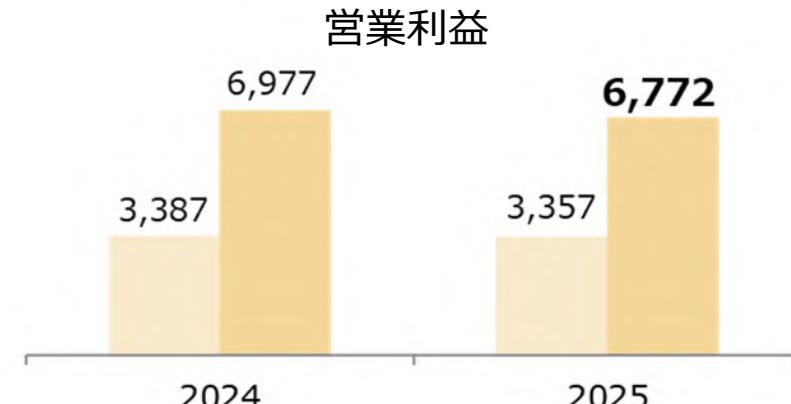
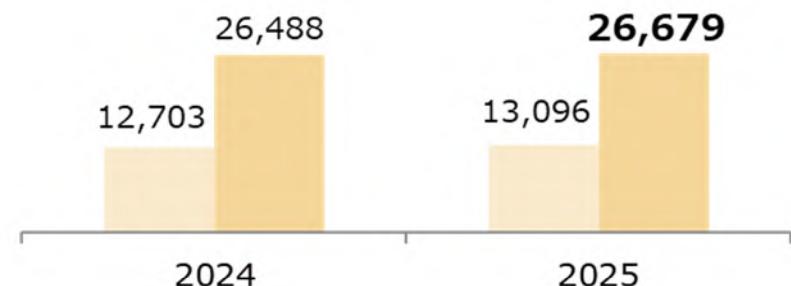


# 人とみらい開発事業

売上高 26,679百万円 前期比 +0.7%  
営業利益 6,772百万円 前期比 ▲2.9%

単位：百万円  
■中間 ■通期

## 売上高



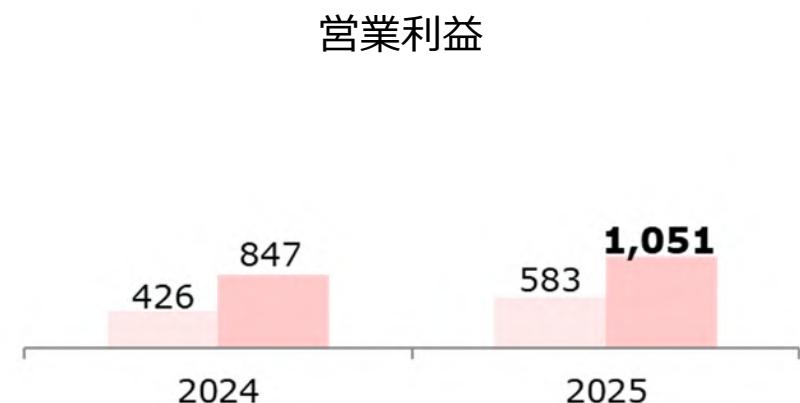
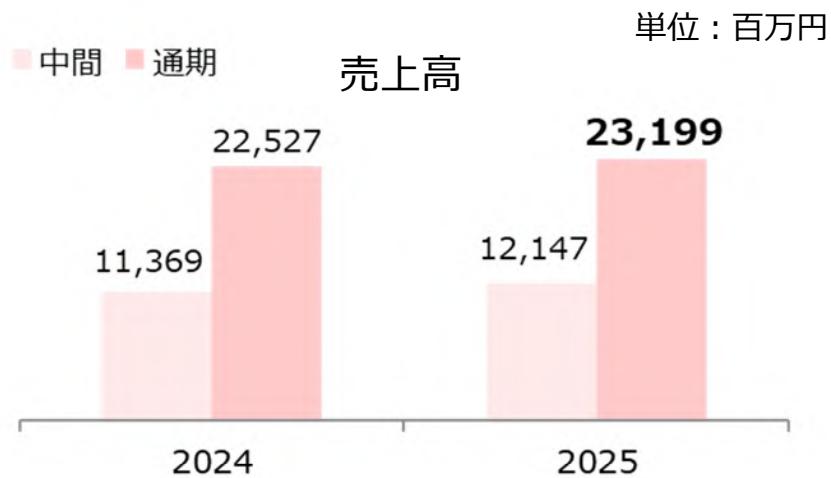
## ＜業績概要＞

- ✓ 商業施設運営の売上は、前期並み。
- ✓ 不動産賃貸は、八重洲通フィルテラス竣工に伴い経費が先行したこと、前期は販売用不動産の売却益計上があったことから減益。
- ✓ 建設関連は、計画通りに工事が完工し増収。
- ✓ 保育関連の売上は、減収。介護関連は、増収。
- ✓ スポーツ関連の売上は、ゴルフ来場者数が減少するも、首都圏エリアでテニススクール収入が伸び、増収。



# 生活流通事業

売上高 23,199百万円 前期比 +3.0%  
営業利益 1,051百万円 前期比 +24.1%



## ＜業績概要＞

- ✓ 寝装品は、EC販売が不調で減収。業務用品は、航空機内膝掛けや災害用毛布が増加し増収。
- ✓ 生活家電は、夏物商品とEC販売の増加により増収。
- ✓ フィルム関連は、ゲーム機用保護フィルムの販売が増加し、増収。
- ✓ スタンプは、新商品の販売が貢献し増収。スタンプ用インクは、海外向けが減少し減収。
- ✓ 乗馬用品の売上は、前期を上回る。
- ✓ コンテナ販売は、受注が増加し増収。

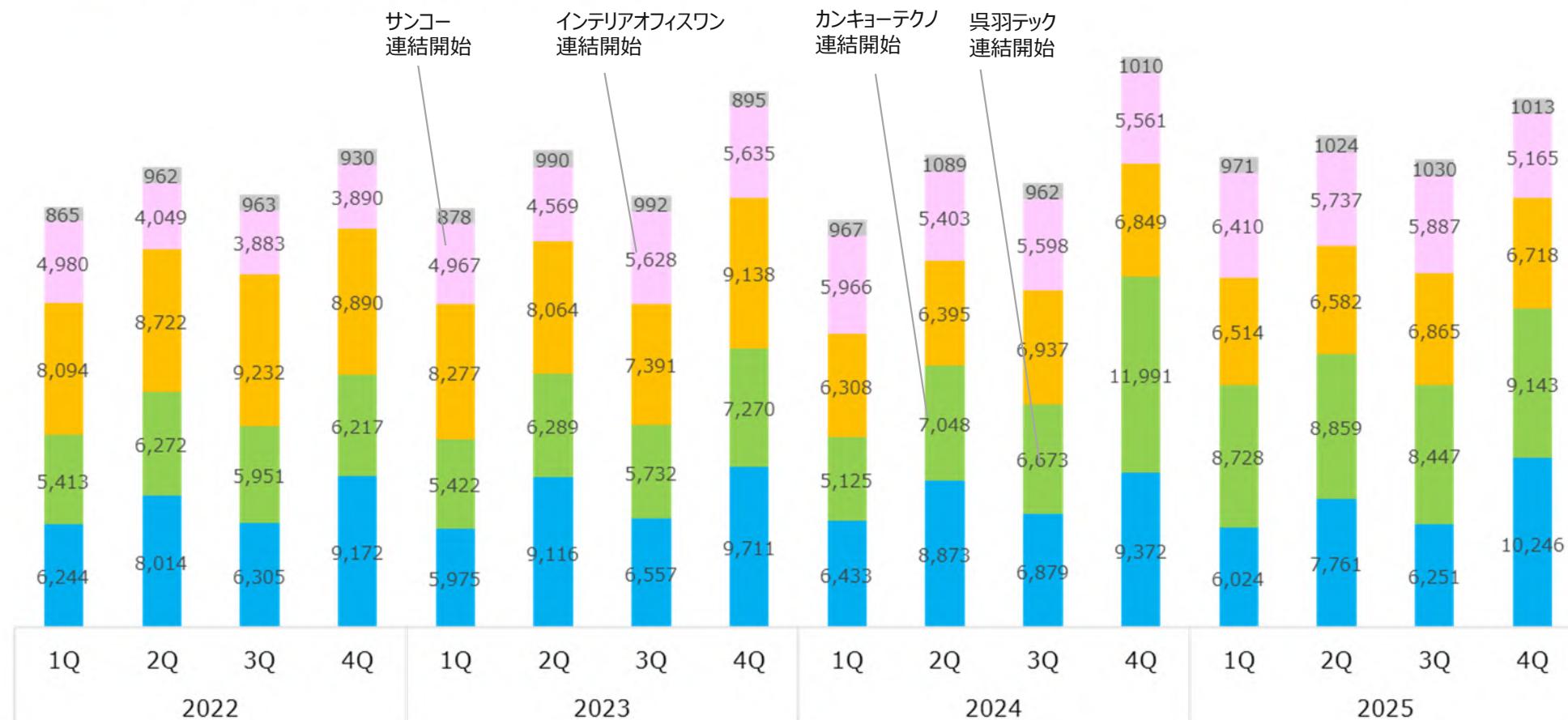
## セグメント別 売上高 四半期推移



## 連結売上高 四半期推移

単位：百万円

■衣料繊維 ■産業機材 ■人とみらい開発 ■生活流通 ■本社



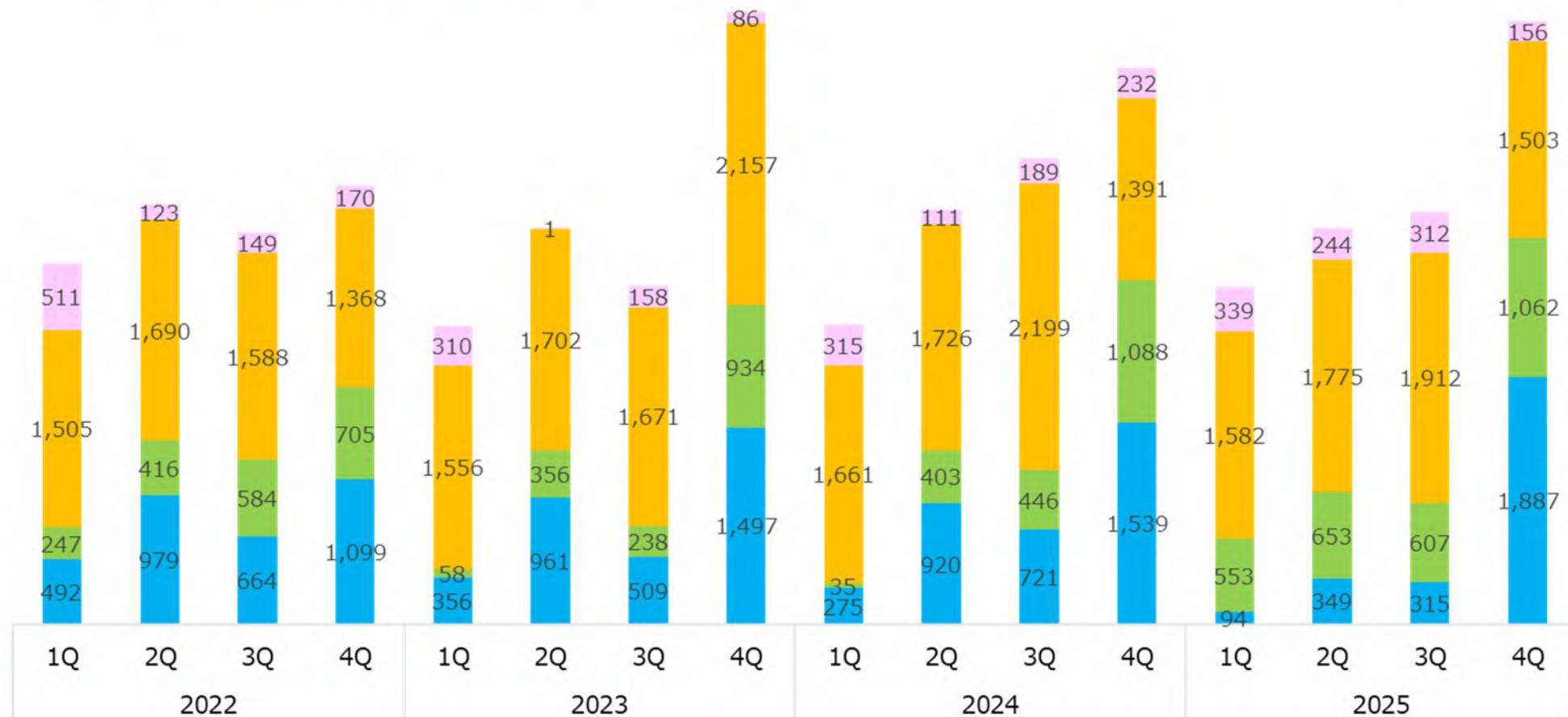
## セグメント別 営業利益 四半期推移

ニッケ グループ

## 連結営業利益 四半期推移

単位：百万円

■衣料織維 ■産業機材 ■人とみらい開発 ■生活流通



※その他・調整額は除く

## 連結貸借対照表／CF サマリー



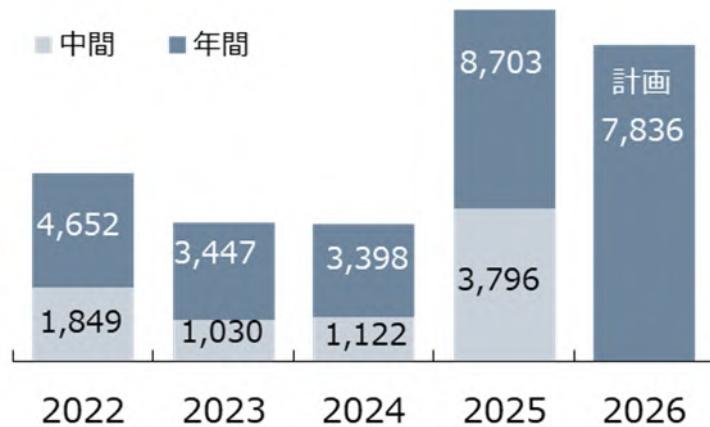
(単位：百万円)

連結貸借対照表	2024/11	2025/11	増減
流動資産	97,295	92,689	-4,606
固定資産	82,639	97,067	14,427
資産合計	179,935	189,756	9,820
流動負債	38,203	35,433	-2,770
固定負債	18,001	22,170	4,168
負債合計	56,205	57,603	1,398
株主資本	110,632	113,712	3,079
その他包括利益累計額	12,167	17,942	5,775
非支配株主持分	930	498	-432
純資産合計	123,730	132,152	8,422
連結C/F	2024累計	2025累計	増減
営業キャッシュフロー	10,158	12,140	1,982
投資キャッシュフロー	-7,856	-9,255	-1,399
財務キャッシュフロー	-4,213	-5,070	-857
現金及び現金同等物の期末残高	33,419	31,293	-2,126

# 設備投資／減価償却費推移



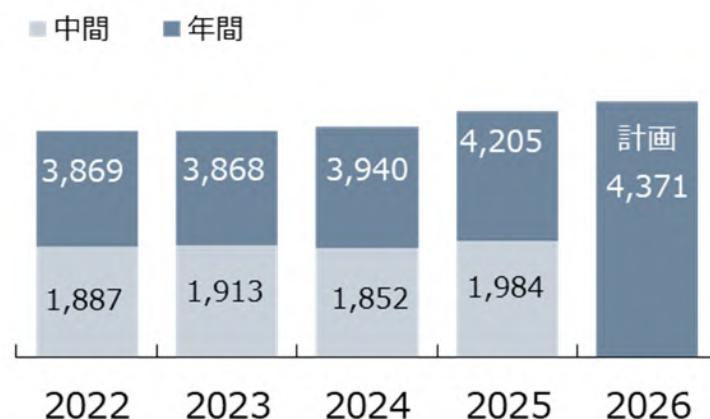
設備投資推移 (単位：百万円)



## 2025年度：設備投資実績

主な設備投資	計画	実績
収益不動産等の取得	約 8.0億円	—
不動産再開発関連	約 35.3億円	約 32.8億円
衣料繊維製造合理化・DX投資等	約 21.0億円	約 15.5億円
インドネシア不織布設備増設	約 7.6億円	約 7.6億円
リサイクル(資源循環)設備導入	約 5.1億円	約 5.4億円

減価償却費推移 (単位：百万円)



## 2026年度：設備投資計画

主な設備投資	計画
不動産再開発関連	約 13.2億円
衣料繊維反毛・紡績設備(NEDO関連)	約 8.3億円
衣料繊維基幹システム	約 5.7億円
不織布・フェルト関連設備	約 18.1億円

## トピックス

## 01 株式会社カコテクノスグループの株式取得



## 機材(FA・機械装置)分野の事業領域拡大を目指す

当社は、中長期ビジョン「RN(リニューアル・ニッケ)130 ビジョン第3次中期経営計画」において、産業機材事業本部の事業戦略として FA・機械装置を含む機材分野の収益拡大を掲げ、成長市場に向けて積極的な投資を進めております。

一方、株式会社カコテクノスは、創業以来90年の歴史を積み重ね「不易流行」を経営理念として、鉄道車両や電力分野などの社会インフラに関連する製品の安全・安定供給を通じて、持続的に社会貢献を果たしてきました。

今回の株式取得を機に、両社の製造技術やノウハウを共有し相互に活用することで、主要なお客様をはじめ関係各社さまへ今まで以上に高品質・高機能な製品とより良いサービスを安定的にお届けし、株式会社カコテクノスの更なる成長とニッケグループの企業価値向上に努めてまいります。



## 会社概要

会社名	株式会社カコテクノス
所在地	兵庫県神戸市須磨区大田町 7-4-2
代表者	代表取締役社長 加古 泰三
事業内容	鉄道車両用・変電所用その他社会インフラ向け制御装置の製造業
資本金	77,000千円
従業員数	237名

## トピックス

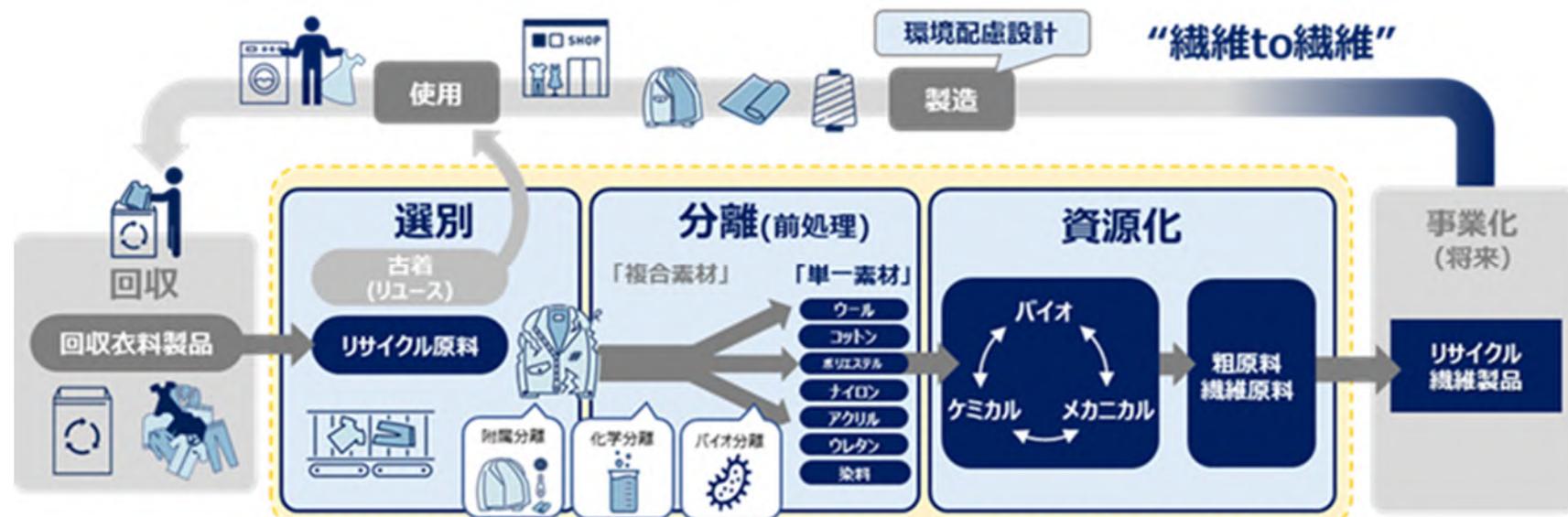
## 02 NEDO「バイオものづくり革命推進事業」採択



## 纖維to纖維の資源循環構築の実現に向けた研究開発・実証プロジェクトに参画

当社を含む纖維企業等6社※は、纖維産業のサステナビリティを推進する為に、コンソーシアム「Consortium for Fiber to Fiber」を設立しました。

また、この度国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が公募する「バイオものづくり革命推進事業」に、「纖維to纖維の資源循環構築の実現に向けた研究開発・実証」を共同提案し採択されました。ニッケグループではこのプロジェクトにおいて「ウール混衣料の前処理技術と再資源化技術の開発」に取り組んでまいります。



※ 帝人フロンティア株式会社、倉敷紡績株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）、東レ株式会社、日清紡テキスタイル株式会社、日本毛織株式会社

## トピックス

## 03 自己株式の取得に係る事項の決定



## 資本効率の向上、企業価値・株主価値の最大化をめざす

当社は、2026年1月15日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

## &lt;取得の内容&gt;

- |               |  |
|---------------|--|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式   |
| (2) 取得する株式の総数 | 200万株（上限とする）<br>(発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：2.98%) |
| (3) 株式取得価額の総額 | 40億円（上限とする）                                    |
| (4) 取得する期間    | 2026年1月19日～2026年5月22日                          |
| (5) 取得方法      | 自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）を含む市場買付                  |

## 2. 2026年11月期 業績予想



# 事業環境認識



 衣料繊維 事業	<ul style="list-style-type: none"><li>国内では少子化により10数年後には学生数が30%以上減少。</li><li>一方で世界の衣料市場は成長が見込まれ、海外市場への取り組みが必須。</li><li>国内毛織物産地の疲弊が進んでいる中で、ニッケグループの国内一貫生産体制の強みを軸としたバリューチェーンの再構築が必要。</li><li>持続可能な社会の実現に寄与する環境配慮型素材や繊維製品の資源循環、多様性への対応が事業戦略上のキーワードとなる。</li></ul>
 産業機材 事業	<ul style="list-style-type: none"><li>自動車関連分野はアメリカの関税政策や中国市況の影響を受ける。</li><li>環境関連分野は環境規制の強化にともない世界的にビジネスチャンスが拡大。</li><li>家電・OA分野は海外での拡大を見込む。</li><li>リサイクルビジネスなどSDGsを意識した市場の拡大が見込まれる。</li></ul>
 人とみらい 開発事業	<ul style="list-style-type: none"><li>ショッピングセンターは地域に根付いており堅調に推移。不動産開発分野ではZEB Ready認証を取得した高環境性能オフィスビルなど資産価値を高めた物件の引合いが増える。</li><li>ライフサポート分野では介護関連市場は引き続き拡大していくものの、介護人員の不足を見越した運営手法やサービスの構築が必要となる。</li></ul>
 生活流通 事業	<ul style="list-style-type: none"><li>Eコマース市場はその利便性から引き続き成長が見込まれる。</li><li>一方で、ボーダレス化から中国を始めとする海外勢の直接参入やメーカー直販により競争が激化。また、円安の長期化により仕入価格や物流費の高騰が継続し、広告宣伝費用の上昇基調も続く。</li></ul>

# 2026年11月期 業績予想



不動産再開発の収益貢献やカコテクノスの通期連結および衣料繊維事業の回復等により増収増益を見込む

(単位：百万円)	実績		業績予想	前期比増減	
	2024/11月期	2025/11月期	2026/11月期	金額	比率
売上高	115,438	119,377	<b>130,000</b>	10,623	8.9%
営業利益	11,640	11,913	<b>13,000</b>	1,087	9.1%
営業利益率	10.1%	10.0%	<b>10.0%</b>	0.0pt	-
経常利益	12,098	12,967	<b>13,400</b>	433	3.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,970	9,090	<b>9,500</b>	410	4.5%

## 2026年11月期 セグメント別業績予想



(単位：百万円)		実績		2026/11月期	前期比増減	
		2024/11月期	2025/11月期		金額	比率
衣料繊維	売上高	31,557	30,282	34,000	3,718	12.3%
	営業利益	3,455	2,645	3,400	755	28.5%
	営業利益率	10.9%	8.7%	10.0%	1.3pt	-
産業機材	売上高	30,836	35,177	43,000	7,823	22.2%
	営業利益	1,972	2,875	3,000	125	4.3%
	営業利益率	6.4%	8.2%	7.0%	-1.2pt	-
人とみらい 開発	売上高	26,488	26,679	26,000	-679	-2.5%
	営業利益	6,977	6,772	7,200	428	6.3%
	営業利益率	26.3%	25.4%	27.7%	2.3pt	-
生活流通	売上高	22,527	23,199	23,000	-199	-0.9%
	営業利益	847	1,051	1,200	149	14.2%
	営業利益率	3.8%	4.5%	5.2%	0.7pt	-
その他 調整	売上高	4,028	4,038	4,000	-38	-0.9%
	営業利益	-1,611	-1,432	-1,800	-368	-
合計	売上高	115,438	119,377	130,000	10,623	8.9%
	営業利益	11,640	11,913	13,000	1,087	9.1%
	営業利益率	10.1%	10.0%	10.0%	0.0pt	-

# 2026年11月期 業績予想増減要因 (前期比)

	業績予想 (前期比) 2026年/11月期	主な増減要因
衣料繊維	<b>売上高 +3,718百万円</b>  <b>営業利益 +755百万円</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクール向けユニフォームの販売増加</li> <li>・ビジネスユニフォーム縫製品、消防向けの受注増加</li> </ul>
産業機材	<b>売上高 +7,823百万円</b>  <b>営業利益 +125百万円</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不織布、フェルト事業の海外販売拡大、合理化推進</li> <li>・カコテクノスの通期連結開始</li> </ul>
人とみらい 開発	<b>売上高 ▲679百万円</b>  <b>営業利益 +428百万円</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不動産再開発の収益貢献本格化 (八重洲通りフィルテラス等)</li> <li>・通信新規サービス、学童保育事業の縮小</li> </ul>
生活流通	<b>売上高 ▲199百万円</b>  <b>営業利益 +149百万円</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種効率化等による収益性の改善</li> </ul>
その他	<b>売上高 ▲38百万円</b>  <b>営業利益 ▲368百万円</b> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整、予備費等</li> </ul>

### 3. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応



# 資本収益性向上に向けた取り組み

(2024年1月公表)



利益創出の強化	資産効率の向上	資本政策の強化	IR強化
<ul style="list-style-type: none"><li>● RN130第3次中期経営計画を推進・達成する</li><li>● 事業ポートフォリオの最適化を図る（成長事業への投資、不採算事業の見直し）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 保有不動産の更なる効率化（不採算物件の再開発、処分など）</li><li>● 非稼働資産の圧縮（保有意義のない政策保有株式の整理など）</li><li>● 投資基準としてROICを指標として継続する（目標8%・最低5%以上）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 株主還元の強化</li><li>● 配当性向については、現行の30%目安から順次切り上げ、第3次中計最終年度での35%を目指す</li><li>● DOE(株主資本配当率)を指標とし、第3次中計最終年度での2.5%を目指とする</li><li>● 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● ステークホルダーがニッケグループへの理解や信頼を高めることができるように対話の強化を図る</li><li>● M&amp;A戦略や事業多角化戦略を説明し、ニッケグループの成長ストーリーを発信する</li><li>● 情報開示の拡充・高度化を進める（IR資料の英文対応など）</li></ul>



資本収益性を意識した経営を推進し、  
**ROE8%目標**の達成と**PBR1倍超**を目指してまいります。

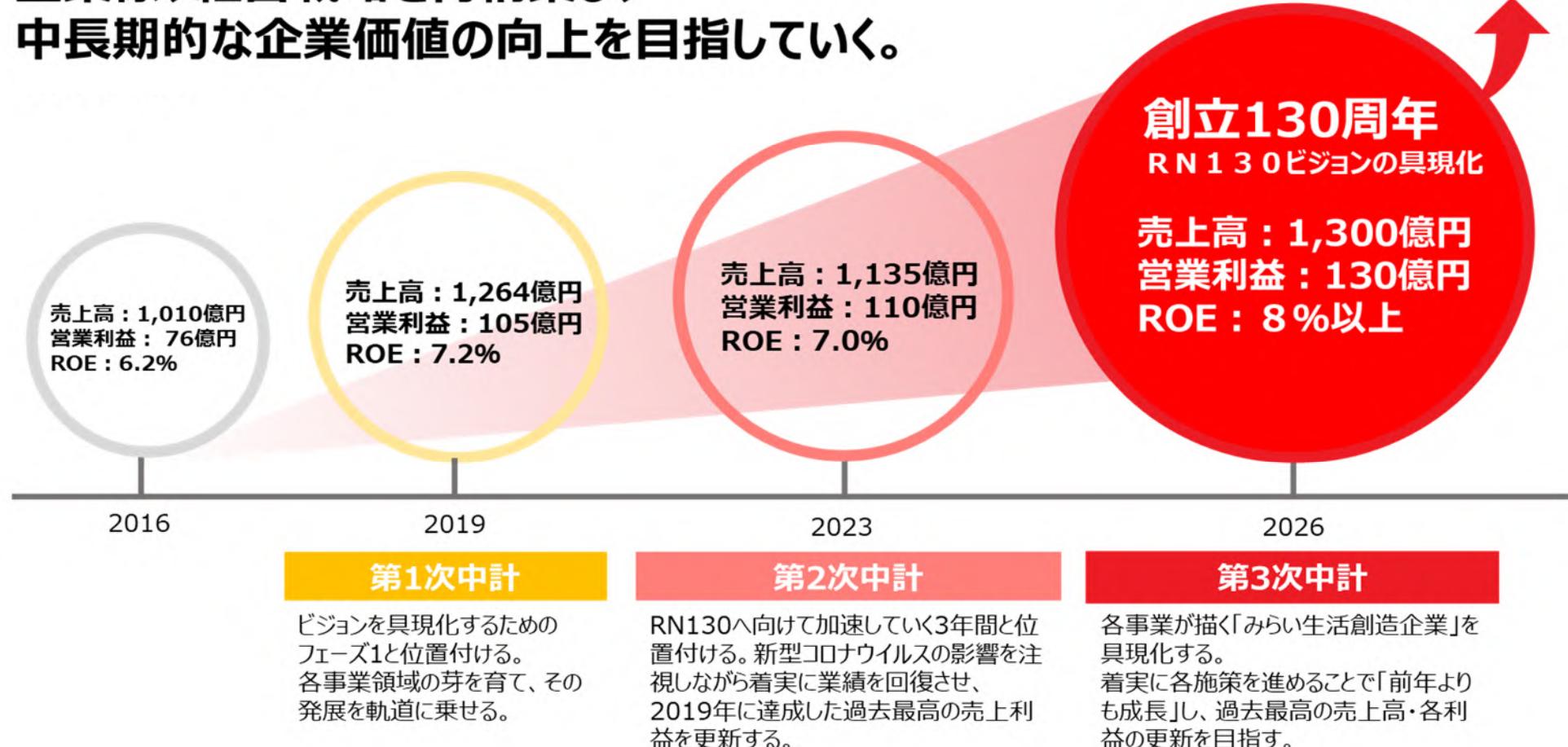
# 中長期ビジョン RN130ビジョン

(2016年1月公表)



中長期ビジョン 「ニッケグループRN（リニューアル・ニッケ）130ビジョン」

今後10年間のニッケグループの目指す方向性、  
企業像、経営戦略を再構築し、  
中長期的な企業価値の向上を目指していく。



## RN130第3次中計進捗



2025年度は売上高、営業利益で中期計画を下回るも経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は目標達成

## RN130第3次中計 (2024~2026)

(単位：百万円)	2024/11		2025/11		2026/11	
	中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	2026.1.15 業績予想
売上高	111,000	115,438	120,000	119,377	130,000	130,000
営業利益	11,000	11,640	12,000	11,913	13,000	13,000
営業利益率	9.9%	10.1%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%
経常利益	11,600	12,098	12,400	12,967	13,400	13,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,700	8,970	7,800	9,090	8,800	9,500
ROE	-	7.6%	-	7.1%	8.0%以上	-

## RN130第3次中計進捗 セグメント別



## RN130第3次中計 (2024~2026)

(単位：百万円)		2024/11		2025/11		2026/11	
		中期計画	実績	中期計画	実績	中期計画	2026.1.15 業績予想
衣料繊維	売上高	32,500	31,557	35,500	30,282	39,500	34,000
	営業利益	3,450	3,455	3,700	2,645	4,300	3,400
	営業利益率	10.6%	10.9%	10.4%	8.7%	10.9%	10.0%
産業機材	売上高	26,000	30,836	29,000	35,177	31,000	43,000
	営業利益	1,850	1,972	2,100	2,875	2,550	3,000
	営業利益率	7.1%	6.4%	7.2%	8.2%	8.2%	7.0%
人とみらい 開発	売上高	26,000	26,488	26,500	26,679	30,000	26,000
	営業利益	6,200	6,977	6,250	6,772	7,200	7,200
	営業利益率	23.8%	26.3%	23.6%	25.4%	24.0%	27.7%
生活流通	売上高	24,500	22,527	26,000	23,199	31,500	23,000
	営業利益	1,350	847	1,750	1,051	2,000	1,200
	営業利益率	5.5%	3.8%	6.7%	4.5%	6.3%	5.2%
その他 調整	売上高	2,000	4,028	3,000	4,038	-2,000	4,000
	営業利益	-1,850	-1,611	-1,800	-1,432	-3,050	-1,800
合計	売上高	111,000	115,438	120,000	119,377	130,000	130,000
	営業利益	11,000	11,640	12,000	11,913	13,000	13,000
	営業利益率	9.9%	10.1%	10.0%	10.0%	10.0%	10.0%

# ニッケグループの成長ストーリー



## 成長ドライバーの 育成

### 産業機材

不織布・フェルト事業、機材（FA）事業を今後の成長ドライバーと位置づけ、ユニフォーム、不動産開発事業に次ぐ第3の収益の柱に強化する

## 安定基盤の収益性 をさらに強化

### 衣料繊維

省人・自動化の設備投資等による製造合理化で収益性をさらに強化する  
**人とみらい開発**

不動産再開発や不採算事業の縮小等で収益性をさらに強化する

## 海外販路開拓

### 衣料繊維

海外のハイブランド・ミドルブランドにテキスタイル生地等の販売を拡大する  
**生活流通**

販売チャネルとしてECを活用し、海外販売の拡大を図る

## 新たなビジネス の構築

### 全社

環境問題の社会的課題の解決貢献する新たなビジネスモデルを構築する

## 成長を支えるM&A

ニッケグループの成長にこれまで大きく貢献してきたM&Aを  
今後も積極的かつ慎重に実施していく

## 産業機材

## 成長戦略



## 成長ドライバー 不織布・フェルト事業の強化

ニッケ グループ

## 不織布・フェルト事業強化のこれまでの取り組み

2020年 5月 ニッケ・アンビックとフジコーの間で資本業務提携契約を締結 (30.7%の株式取得)

2021年 1月 フジコーでの生産をアンビックへ移管

2021年 9月 ニッケがフジコーを完全子会社化

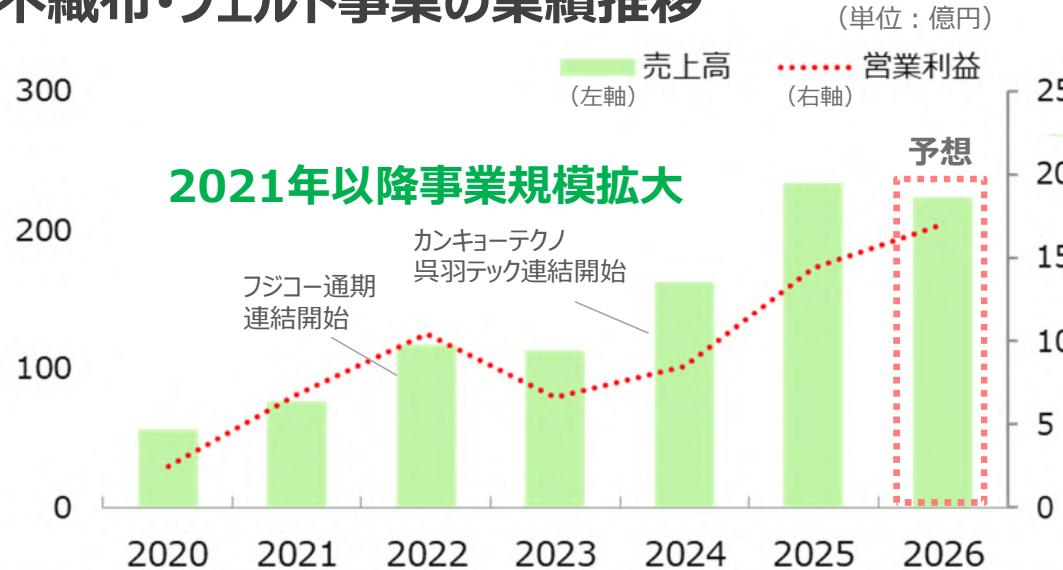
2023年12月 アンビックとフジコーが経営統合

→ 株式会社エファンドエイノンウーブンズ

2024年 4月 東洋紡カンキヨーテクノの株式を取得 ※

2024年 8月 呉羽テックの株式を取得

## 不織布・フェルト事業の業績推移



不織布・フェルト事業は、2020年から2025年にかけて  
**売上高は約4倍、営業利益は約6倍**に拡大。

当社グループ加入前は**3期連続赤字**の旧フジコーは、アンビックとの生産集約や販売拠点の統合等により**2022年に黒字化**。カンキヨーテクノ、呉羽テックについても同じノウハウを活用し**2025年以降さらなる合理化を図る**

※ 株式会社東洋紡カンキヨーテクノは2024年4月17日付で商号を「株式会社カンキヨーテクノ」に変更しております。

## 産業機材

## 成長戦略



## 成長ドライバー 不織布・フェルト事業の強化

ニッケ グループ

## ターゲット市場

- ターゲットとする領域は当社にとって市場の成長が見込める**自動車・環境関連等**の工業用資材分野
- 価格競争の影響を受けやすい汎用品の衛生材（マスク）等は注力分野と位置付けない

## 不織布・フェルト市場

衛生材（マスク・おむつ等）

## ターゲット市場

## 自動車・環境関連分野



ゴミ集塵機用フィルター

古着反毛

自動車用内装資材

## 競争優位性

- 売上規模の拡大による競争力の向上  
2024年8月に呉羽テックをグループに加え、不織布・フェルト事業の売上規模は約230億円に拡大、**市場シェアは国内2位**※に浮上。
- グローバルな製造・販売拠点の活用  
カンキヨーテクノ、呉羽テックがグループに加わり、中国・ASEAN、北米地域の製造・販売拠点が拡充。顧客のニーズに合わせた多様な事業展開に対応。

## 今後の成長戦略

- 北米での自動車用内装資材の販売拡大  
呉羽テックの**北米の拠点を活用**し、自動車用内装資材の販売を拡大していく。
- ベトナム・インドネシアでの生産販売体制の強化  
生産設備の増強や工場移転拡大により**生産能力・生産性ともに向上**。適地適品生産で受注の拡大を目指す。  
→ 2023年にベトナムの工場を移転拡大、2025年にインドネシア製造ラインを増強。

北米やASEAN地域を中心に**海外販売を拡大**

- ✓ 不織布・フェルト事業をスクールユニフォーム、不動産開発に次ぐ**ニッケグループ「第3の収益の柱」**に育成

※ ニードルパンチ式、ケミカルボンド式製法による不織布・フェルト市場のシェア（当社調べ）



# 機材事業の強化

**ニッケ** グループ

- ✓ (株)カコテクノスのグループ化により産業機材分野での事業領域を拡大

## ニッケグループの機材事業



株式会社ニッケ機械製作所

車載電装品・部品・センサー、二次電池、半導体の製造・検査装置を中心とした、F A事業が主力事業。

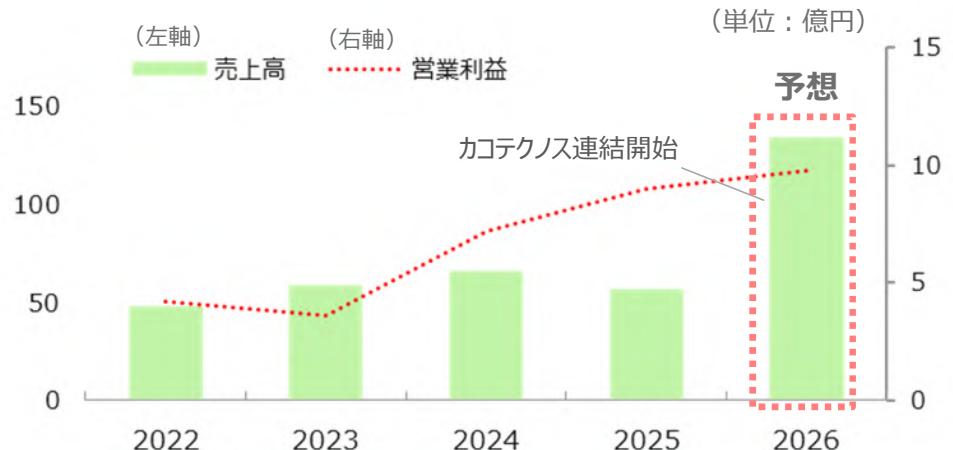


株式会社カコテクノス

制御機器装置の製造メーカー。設計・部品調達・組立・試験検査迄を一貫して手掛けており鉄道車両用のブレーキ装置が主力製品。

- 鉄道車両用のブレーキ装置は日本国内の90%以上の鉄道会社の鉄道に搭載され国内生産シェアは約50%

## 機材事業の業績推移



## ターゲット市場

- 主にターゲットとする領域は当社にとって市場の成長が見込める「車載」「バッテリー」「半導体」関連分野等。
- カコテクノスのグループ化により、新たに「鉄道」関連分野を事業領域に加える。

## カコテクノスとのシナジー

- 人的支援・交流および製造ノウハウの共有**  
ニッケグループからの人財支援やニッケ機械製作所との設計・製造技術に係るノウハウを共有できる。
- 生産能力の増強**  
ニッケグループの資本力を活用する事で、今後の需要動向に応じ生産能力(設備投資)の増強が可能となる。
- 鉄道以外の新たな分野への進出**  
ニッケ機械製作所との連携を強化する事で、新たな事業領域への進出を検討していく。

衣料繊維

成長戦略



# 海外販売拡大と国内製造強化

**ニッケ** グループ

## 海外ターゲット市場

- 欧州アパレル市場
  - ・ハイブランド、ミドルブランド向けのテキスタイル生地販売を強化

生地ハードな風合いや仕立て映えは、欧米・アジアのテキスタイルメーカーとの**差別化要因**の一つ



- ・パリでの**個展開催**や現地人員の登用により顧客接点の増加を図る



パリでのニッケ初の単独個展開催

## 国内製造力と収益性の更なる強化

- 省人・省エネ・自動化の設備投資やデジタル技術の活用による製造の合理化等で**製造力と収益性を強化**

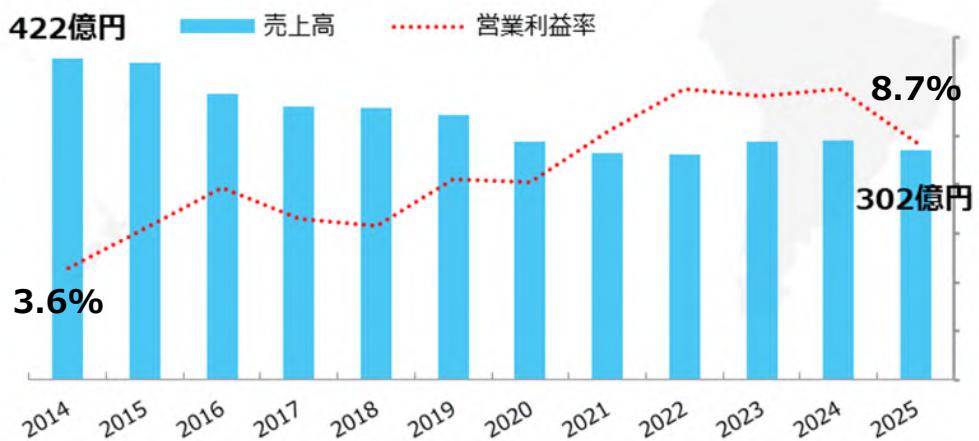


**要員(人員)配置の最適化**



- ・衣料繊維の収益性を改善
- ・産業機材事業等で人財を活用

## 衣料繊維事業の業績推移



✓ 国内製造力と収益性を高めると共に、海外販売拡大に向け施策を実行

人みらい開発

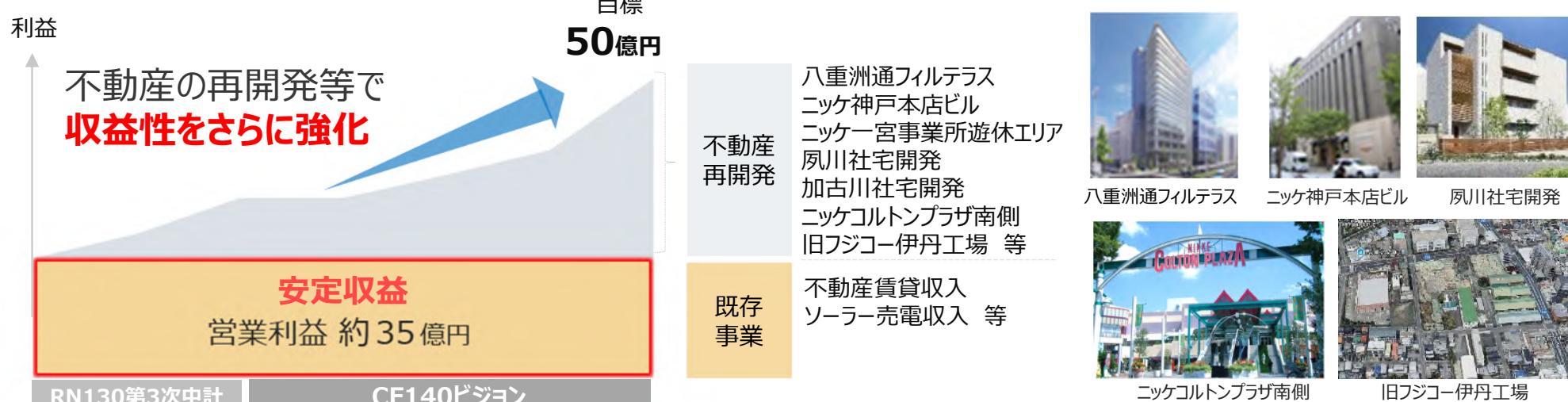
成長戦略



## 不動産開発事業の推進

ニッケ グループ

再開発案件	所在地	収益貢献	進捗スケジュール（予定）		
			2025	2026	2027
八重洲通フィルテラス（旧ニッケ東京ビル）	東京都中央区	大	済 (先行経費・フリーレント発生)	収益貢献本格化	-----→
ニッケ神戸本店ビル	兵庫県神戸市	小	済	収益貢献本格化	-----→
ニッケ一宮事業所（遊休エリア）	愛知県一宮市	中	済	収益貢献本格化	-----→
夙川社宅開発	兵庫県西宮市	小		済 収益貢献本格化	-----→
加古川社宅開発（1期）	兵庫県加古川市	中			工期（予定）
ニッケコルトンプラザ南側	千葉県市川市	大		開発プラン検討（予定）	→
旧フジコー伊丹工場	兵庫県伊丹市	大		開発プラン検討（予定）	→



✓ 2026年度よりニッケ東京ビル（八重洲通フィルテラス）の収益貢献が本格化

人みらい開発 成長戦略



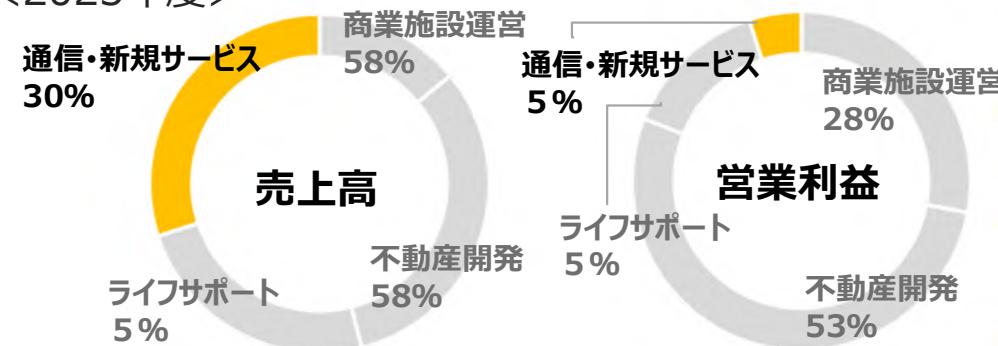
# 事業ポートフォリオの見直し

**ニッケ** グループ

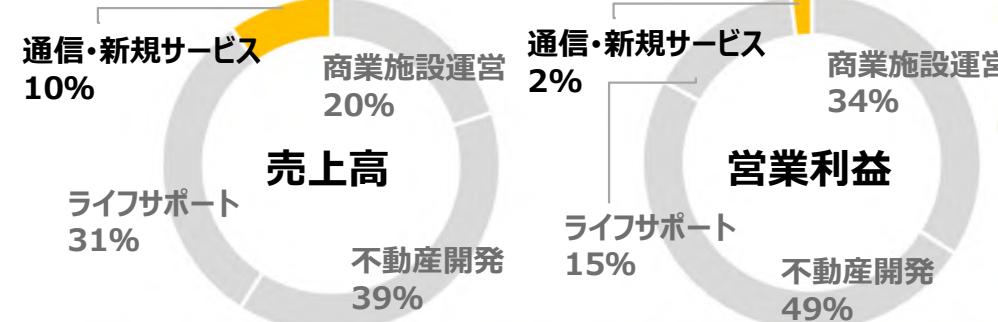
人とみらい開発事業では2024年にポートフォリオを見直し、通信・新規サービス分野を縮小。2026年以降は、不動産再開発効果等により、収益性をさらに強化

## 人とみらい開発：事業ポートフォリオ構成

&lt;2023年度&gt;

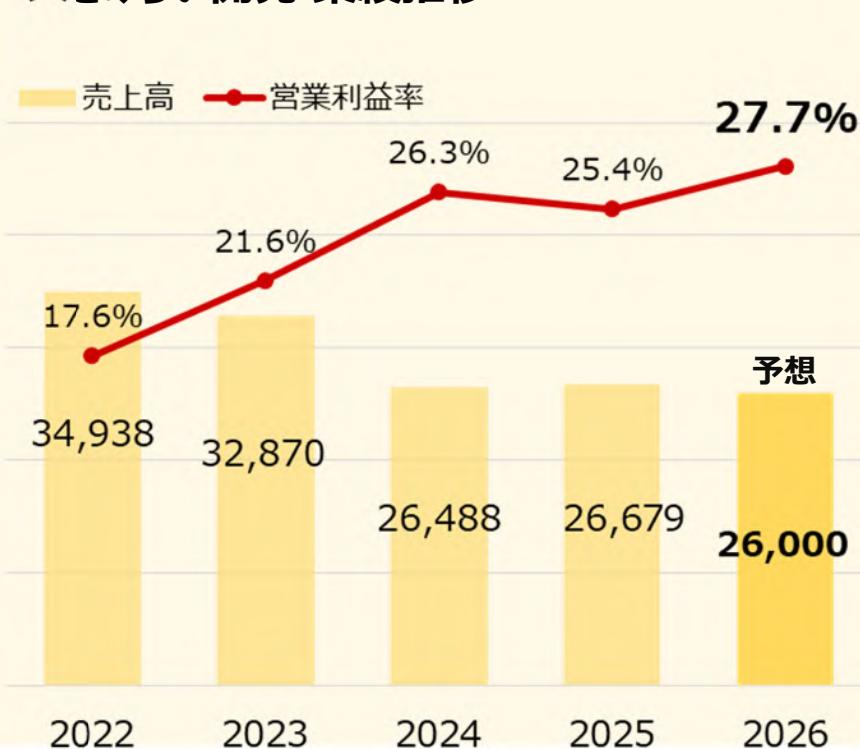


&lt;2025年度&gt;



## 人とみらい開発 業績推移

(単位：百万円)



✓ 通信分野（携帯電話）では、近年競争が激化し収益性が継続的に低下していた為、事業を縮小

生活流通 成長戦略

# 新たな販路の開拓

**ニッケ** グループ

## 新たな販路開拓に向けた取り組み



将来に向けて最適なバリューチェーンの構築を目指す

- ✓ 海外販路の拡大等新たな販路の開拓に向け最適なバリューチェーンの構築を目指すと共に、事業のグループ化やオリジナルの自社商品の開発等により収益性の改善を図る。

## 収益性強化に向けた取り組み

### ①事業のグループ化

生活流通事業所管の11社を事業内容でグループ化し、会議体の統合、共同仕入、商品開発等を一体運営を推し進める

### ②EC機能の強化

EC販売を主体とするミヤコ商事、AQUA、サンコー、インテリアオフィスワン4社の人財・システム・ノウハウの共有化を進め、企画開発・販売力をさらに強化する。

### ③物流の合理化

物流業務の集約等による効率化を進める。

#### 主なEC関連商材



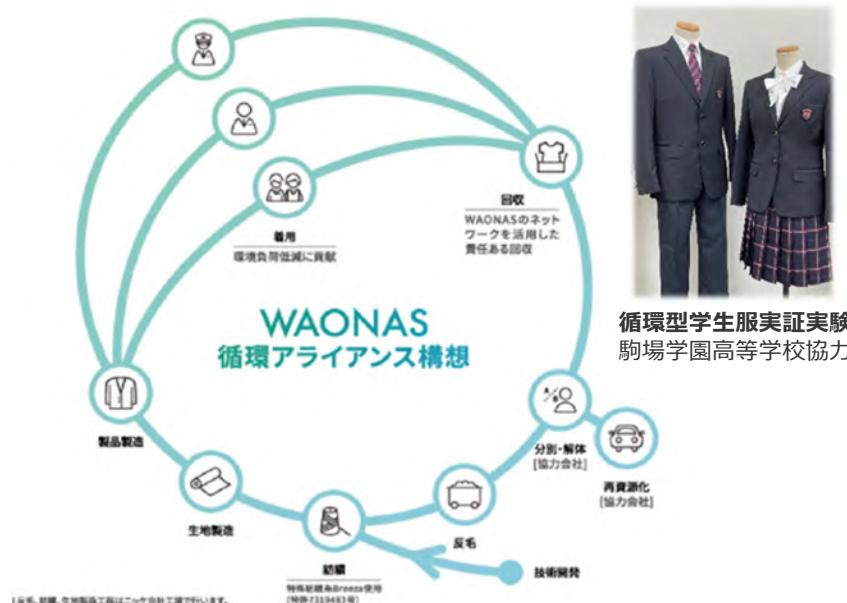
成長戦略

# 持続可能な社会の実現への取り組み

 グループ

環境問題等、社会的な課題解決の貢献を目指し、次の成長に繋がる  
新たなビジネスモデルを構築する

## 「服から服」への循環プロジェクト WAONAS(ワオナス)を開始



使わなくなったウール衣料品を回収・再生し廃棄ゼロを目指す、「服から服」への循環プロジェクトWAONAS（ワオナス）をスタートし、資源循環システムの構築を推進。

## 古着の反毛リサイクルの取り組み



古着からジッパー・ボタンなどの異物を除去する工程を自動化する事で、繊維製品の資源循環システム構築上の課題解決に貢献。

## 繊維to繊維の資源循環構築の実現

繊維企業等6社※は「繊維to繊維」の資源循環構築を実現する為のコンソーシアムを設立。当プロジェクトは、国立研究開発法人「NEDO」が公募する「バイオものづくり革命推進事業」に採択。

※ 帝人フロンティア株式会社、倉敷紡績株式会社、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）、  
東レ株式会社、日清紡テキスタイル株式会社、日本毛織株式会社

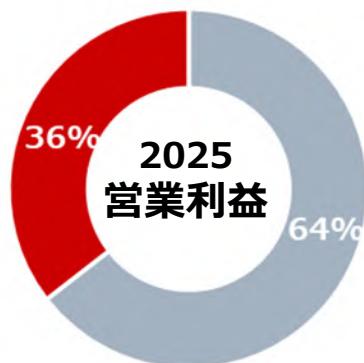
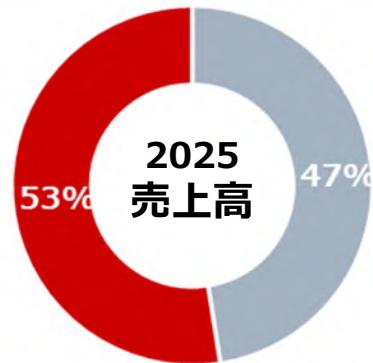
成長戦略

# 戦略的M&Aの実施



## M&Aの業績への寄与※

■ M&Aで加わった会社 ■ 既存事業



## M&Aの実績（直近5年間）

2021.9 株式会社 **フジコー** 不織布の製造販売等



2022.11 **THANKO** 生活家電の企画・卸売・小売



2023.6 **Interior Office One** 家具・寝具の企画・販売等



2024.4 株式会社 **カンキョーテクノ** フィルターバッグの製造販売等



2024.8 **呉羽テック株式会社** 不織布の製造販売等



2025.10 **KAKO**  
株式会社 **カコテクス** 鉄道用制御装置の製造販売等



## M&Aの基本戦略

### 投資基準

**ROIC** : **目標 8 %** (最低 5 %)

対象会社の収益予測を徹底的に行うとともに、のれん代の評価額を営業利益5年分以内にすることを条件とし、**買収価格の高騰に歯止め**をかけている。

### ■ 事業領域の拡大

- 既存事業と親和性の高い分野を対象とし、商品ラインナップやバリューチェーンの拡充を図る

### ■ 人財の獲得

- 専門的な知識や技術を有する人財を確保する

### ■ 収益力の強化

- 長年にわたるM&Aで培ったノウハウやニッケグループの総合力を活かし、様々な合理化を図る（生産統合・不動産開発等）

✓ 第3次中計（予算枠200億円）の進捗は順調に推移し、**2026年度も複数のM&A案件を精査中**

※ 1995年以降M&Aでニッケグループに加わった会社を対象

# 資産効率の向上



## ■ 保有不動産の活用の強化

- 八重洲通フィルテラス竣工（旧ニッケ東京ビル）
- 一宮事業所遊休エリア（愛知県）の土地賃貸
- ニッケ神戸ビル（兵庫県）の耐震改修工事完了
- 夙川社宅（兵庫県）の開発完了（賃貸集合住宅）
- コルトンプラザリニューアル後の集客力維持向上 等



八重洲通フィルテラス



一宮事業所遊休エリアの土地賃貸



夙川社宅（跡地）開発

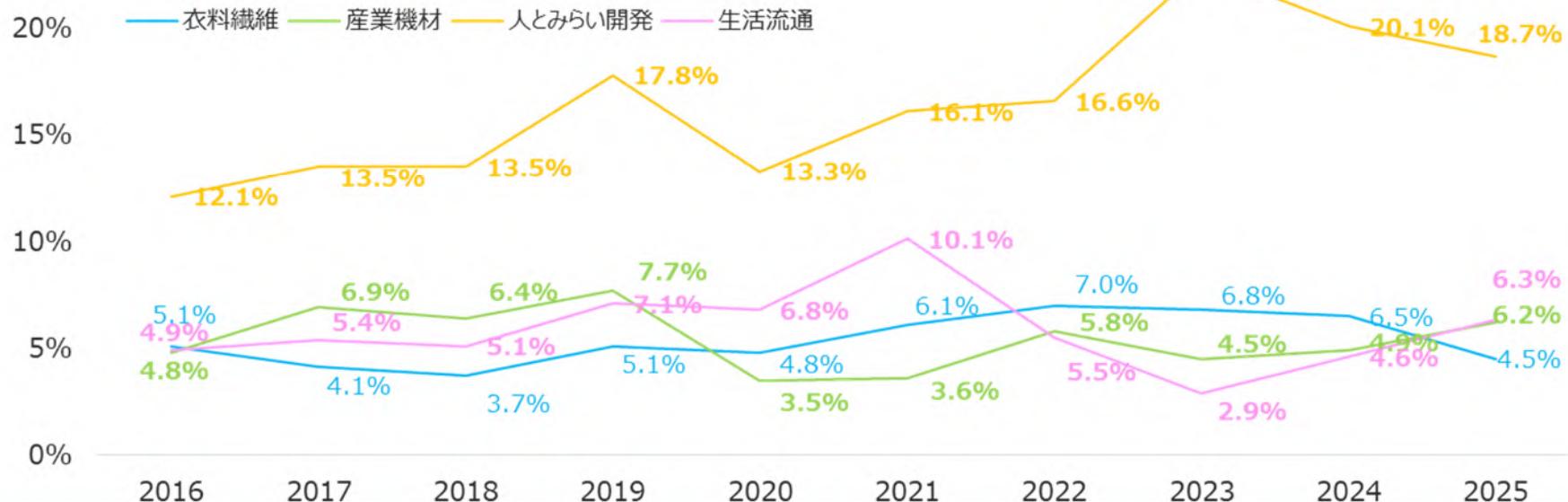


ニッケ神戸ビル

## ■ 規律ある投資の実行

- 投資基準：ROIC 目標 8%・最低 5%

&lt;セグメント別ROIC推移&gt;



# 資本政策強化

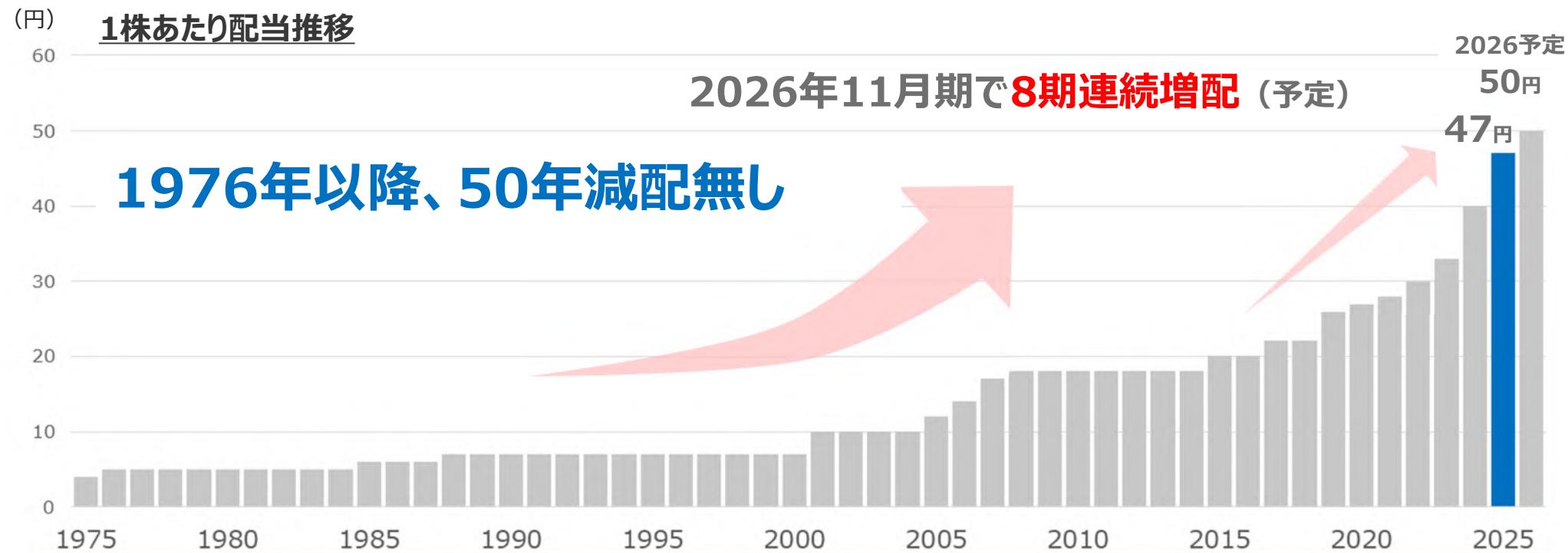
ニッケループ

## ■ 減配しない「累進配当」をベースに株主還元を拡大

- ・2025年11月期は当初予想より5円増配し1株あたり年間 47円の配当を予定
- ・2025年10月に200万株（発行済株式総数に対する割合※：2.90%）の自己株式取得を実施
- ・2026年1月に200万株（発行済株式総数に対する割合※：2.98%）上限の自己株式取得を決定
- ・中計最終年度2026年11月期の目標は配当性向35%、DOE 2.5%（2025年11月期に前倒しで達成）

※2025年1月10日公表

株主還元方針の見直し：投資家の意見等も踏まえ累進配当・DOE 2.5%目標を方針に追加



※ 発行済株式総数に対する割合は自己株式を除く

# IRの強化



株主・投資家との対話を通じ、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努めています

## ■ 情報開示の強化

- 決算説明会の動画、質疑応答（要旨）の開示
- 英文資料の開示（決算短信サマリー・決算説明資料・統合報告書等）
- マテリアリティの特定・対応方針・取り組み実績等の開示
- 個人投資家向け説明会の動画、プレゼンテーション資料の開示
- 株主総会動画の開示
- IR専門部署（広報IR・総務法務室）の整備 等



## ■ 対話の取り組み状況

- 株主・投資家との対話は財経室・経営企画室・広報IR・総務法務室が連携して対応しております。
- 2025年度はIR・SR面談をあわせて49回実施、また個人投資家向け説明会を1回開催しました。
- 対話で得られた認識や課題は、各事業部とのミーティング、グループ経営会議、取締役会等の場で共有し、資本コストや株価を意識した経営の参考にさせて頂いております。

### 対話の主なテーマや関心事項

今後の成長ドライバー・不動産事業の方針・第3次中期経営計画・M&A戦略・資本政策（株主還元）  
キャッシュフロー・ガバナンス全般（買収防衛策・政策保有株式等）等

# 株主・投資家との対話事例



## 質問事項

## 当社の対応・方針

### Q.M&A戦略の特色は？

事業領域の拡大・人財の確保・収益力の強化等を目的とする。現在、売上で約53%、営業利益で約36%がM&Aでニッケグループに加わった会社※の業績が占める。これまでの実績が評価され、現在当社には多くの案件が持ち込まれ、常時約400件程精査している。その中から実行するのは、毎年厳選した1～2件。投資基準にROICを用い規律を守りながらも積極的にM&Aを行うのが特色。高値掴しない事を強く意識している。

### Q.株主還元方針の考え方は？

創業以来、安定配当を強く意識。オイルショック後の1976年以来50年間一度も減配していない。一方で現状の株主還元水準では年々純資産が積み上がりてしまい、資本効率がなかなか改善しないのが課題。当社の目標水準が決して高くない事も認識しており、適正な水準について社内で継続的に議論している。

### Q.不動産事業の方針・考え方は？

不動産事業は衣料繊維の工場跡地再開発から始まった。単なる賃貸でなく、商業施設、介護・保育、スポーツ施設等自ら運営することで付加価値を高めてきた。現在、人とみらい開発事業の営業利益の約80%が商業施設のテナント収入とオフィスビル等の不動産賃貸収入となっている。また最近では、M&A等でグループに加わった会社の遊休地を再開発するなど、不動産事業のノウハウを活かして事業を展開している。

### Q.2025年度の衣料繊維の減益要因は？

スクールユニフォームの販売が低調だった事が主因。近年、LGBTQに配慮した学生服へのモデルチェンジが急増していた事や約3年前に学生服の納品が入学式に間に合わない事例が生じた事を背景に、流通全体で在庫過多となり、販売が減少した。これに伴い生産量も減少し製造効率が悪化した事で、利益率の低下を招いた。流通在庫調整の影響は、2026年度にも影響を及ぼす見込み。

### Q.アメリカの関税政策の影響は？

影響を受ける恐れがあるのは主に産業機材事業。自動車関連の設備投資が抑制されるとFAの受注が減少する。また、国内の自動車生産が減少すれば、内装材等に使用される不織布、フェルト等の販売が減少する。まだ先の見通しが立たない部分もあるが、現時点では大きな影響はないと考えている。

※ 1995年以降M&Aでニッケグループに加わった会社を対象

## 4. 参考資料



## 4. 参考資料

### ニッケグループについて

- ① 事業の変遷（価値転換の歴史）
- ② 事業領域とサービス
- ③ 各事業の特色（衣料繊維・産業機材・人とみらい開発・生活流通）
- ④ 4つの事業体制の強み
- ⑤ セグメント別業績（5年推移）
- ⑥ 資本政策・株主還元方針
- ⑦ キヤッシュアロケーション（第3次中計）
- ⑧ マテリアリティ
- ⑨ 連結会社数の推移
- ⑩ 配当指標
- ⑪ 主要な経営指標（5年推移）
- ⑫ 株価チャート
- ※ 主要な経営指標（10年推移）
- ※ 羊毛原料相場・為替相場の推移

# ニッケグループの歩み 値値転換の歴史



## 1960年～ 基盤の強み育成 ユニフォーム事業

日本の衣料繊維業の最盛期に将来を見据えて安定的なユニフォームビジネス事業の拡大に着手。

特にスクールユニフォームでは全国販売ネットワークを展開し、現在まで続く事業基盤を確立した。

## 1980年～ 基盤事業（繊維）を維持しつつ 事業を多角的に展開 工業製品／エンジニアリング／街づくり

日本の衣料繊維業界全体が縮小する中で、安定的なユニフォーム事業に特化。バブル期の学生服のブレザー（ウールの比率が高い）化の流れを捉え、シェアを更に拡大。

上記以外の繊維事業を再編  
余剰資本を、強みを活かした新分野へ投入。  
不動産は、売却を行わず地域開発を志向

繊維工場の統廃合で  
保全の技術者がエンジニアリング事業を開始

工場跡地活用として  
不動産開発事業（商業施設運営等）  
を開始

## 2000年～現在 “社会価値”を起点とする投資 M&A/組織再編

M&A・繊維再編とともに  
社会ニーズの高い新分野へも参入

2000年  
介護事業  
参入

2014年  
ソーラー発電  
事業参入

2015年  
EC関連事業  
を本格化

2017年  
保育事業  
参入

1896  
創業

祖業は繊維業

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

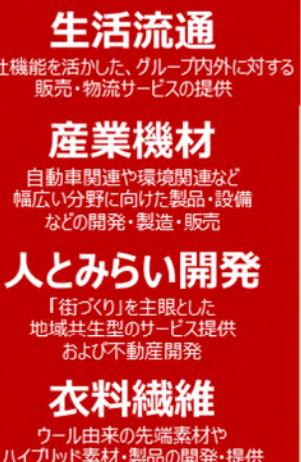
2010

2020

優位分野の育成  
による安定した  
収益基盤の確立

繊維事業からの  
“人材・ノウハウ・資産”  
の活用による価値転換

事業や資本の活性化  
新しい社会価値の探索



# ニッケグループの事業領域とサービス



売上構成	事業領域	セグメント内 売上構成	主な取り扱い商品・サービス
 <b>衣料繊維 事業</b> <u>26%</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユニフォーム</li> <li>■ テキスタイル</li> <li>■ ヤーン</li> <li>■ その他</li> </ul>	80% 15% 4% 1%	<u>学校制服用素材／一般企業制服用素材／官公庁制服用素材</u> <u>一般衣料用素材</u> <u>売糸</u> <u>その他</u>
 <b>産業機材 事業</b> <u>31%</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車関連</li> <li>■ 環境関連</li> <li>■ その他産業関連</li> <li>■ 生活関連</li> </ul>	47% 20% 20% 13%	<u>FA/緩衝材/エアバッグ・シートベルト用縫製糸/モーター結束紐</u> <u>フィルター</u> <u>OA・家電向け資材/半導体関連製品</u> <u>ラケットスポーツ関連/フィッシング関連/楽器用資材</u>
 <b>人とみらい 開発事業</b> <u>23%</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商業施設運営</li> <li>■ 不動産開発</li> <li>■ ライフサポート</li> <li>■ 通信・新規サービス</li> </ul>	20% 39% 31% 10%	<u>商業施設運営</u> <u>不動産賃貸／ソーラー売電事業／建設事業</u> <u>保育・学童保育／介護／スポーツ関連</u> <u>通信関連</u>
 <b>生活流通 事業</b> <u>20%</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 寝装品・業務用品</li> <li>■ 生活雑貨</li> <li>■ ホビー・クラフト</li> <li>■ その他</li> </ul>	14% 56% 15% 16%	<u>寝装品／航空機内膝掛毛布／災害備蓄用毛布</u> <u>生活家電・雑貨／100円ショップ向け雑貨／家具／フィルム</u> <u>スタンプ用インク・スタンプ／乗馬用品／手編毛糸</u> <u>コンテナ販売／保険代理店</u>

※売上構成・セグメント内売上構成は2025年11月期 実績ベース

※売上構成は全社売上高からその他・調整部門売上高4,060百万円を除いた売上高をベースに算出

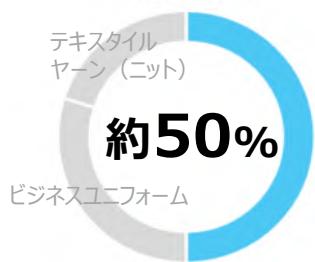
# 衣料繊維事業の特色



- ✓ 中学校・高校の学生服生地のシェアNO.1。生産性向上へのたゆまぬ取り組みにより高い収益性を実現

## スクールユニフォームの生地販売が主力

衣料繊維事業の**約50%**はスクールユニフォーム関連の売上  
売上構成



スクールユニフォーム  
関連売上



プレザーランドセル

### 事業の優位性

- ✓ 高い製造力
- ✓ グループ内でサプライチェーンが完結する一貫供給体制

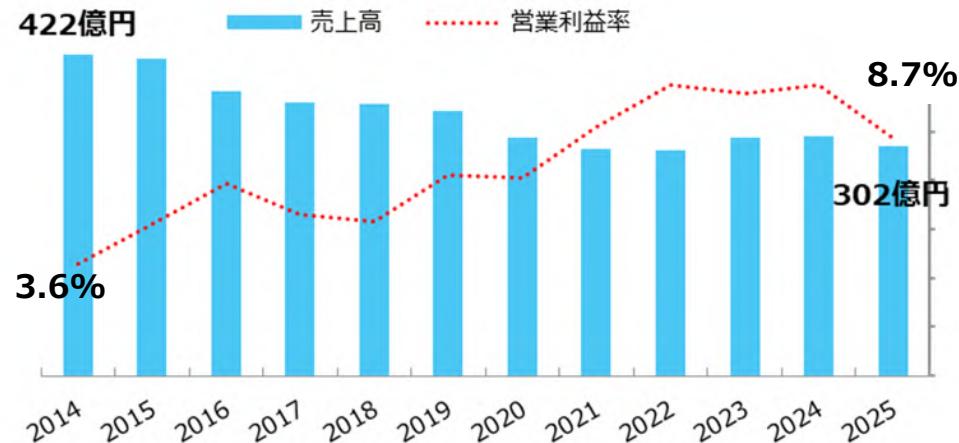
スクールユニフォームは入学式に必ず間に合わせる必要があります、また1年から3年生まで制服の色味を揃えなければなりません。天然素材のウールを原料に使用する事の多いプレザーランドセルの生地の製造には特に高い技術が求められます。

**中学校・高校の学生服生地  
約50~60%のシェア※**

## 継続的に収益性を改善

- ・汎用品（テキスタイル・糸）販売の縮小
- ・製造、販売体制の見直し（生産集約・販売統合）
- ・省エネ、省人、自動化による製造合理化

### 衣料繊維事業の業績推移



※ 当社調べの推定値（プレザーランドセルで特にシェアが高い）

# 産業機材事業の特色



- ✓ 不織布・フェルト、FA（ファクトリーオートメーション）等の独自技術で事業拡大

## 不織布・フェルト製品：自動車・環境・OA機器向け等の工業用資材が主力

市場シェア  
国内2位 \*

### 自動車関連



裁断  
加工



緩衝材や振動防止材



フロアーカーペット (車体床)



エアフィルター



トランク材

内外装材やフィルタ  
ー等幅広い用途の  
製品を供給

### 環境関連



ゴミ集塵機用のフィルターバッグ

### OA機器関連



プリンター・複写機のトナーシール  
インクジェット廃インク吸収体

## FA事業：FA設備の製造・販売



設計技術者100名以上 (ニッケ機械)



鉄道関連の制御機器等の設計・製造・試験

## 生活関連：ラケットスポーツ・釣り糸等



バドミントンガット



釣り糸

\*ニードルパンチ式、ケミカルボンド式製法による不織布・フェルト市場のシェア（当社調べ）

# 人とみらい開発事業の特色



## ✓ ニッケグループの成長を支える安定した利益とキャッシュフローの源泉

人とみらい開発事業の営業利益の**約80%**は商業施設の**テナント収入**と**オフィスビル等の不動産賃貸収入**

### ショッピングセンター運営：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウンの2施設を自社運営



#### ニッケコルトンプラザ

所在地：千葉県市川市鬼高1-1-1  
設立：1988年11月25日  
敷地面積：約43,000坪  
店舗面積：71,000m<sup>2</sup>



#### ニッケパークタウン

所在地：兵庫県加古川市加古川町寺家町173-1  
設立：1984年2月8日  
敷地面積：約22,100坪  
店舗面積：42,000m<sup>2</sup>



### 不動産開発関連：不動産賃貸、建設事業 等

保有不動産（事例）



ニッケ東京ビル（八重洲通フィルテラス）



ニッケ神戸本店ビル



賃貸住宅（夙川）

保有不動産の再開発で収益性を  
さらに向上

### ライフバリューサービス：介護・保育・スポーツ事業



商業施設周辺で、介護・保育・スポーツ等、地域密着型サービス  
を複合的に展開

# 生活流通事業の特色



- ✓ 特徴ある生活関連商品を扱う企業をM&Aでグループ化し拡大

## 寝装品・業務用品：寝装品・業務用品・災害用毛布 等



寝装品



ニッケ商事株式会社



災害備蓄用/難燃性毛布



## ホビークラフト：スタンプ・スタンプ用インク、乗馬用品 等



スタンプ・スタンプ用インク



乗馬用品

TSUKINEKO 株  
KODOMO NO KAO  
HQPSY  
INTERNATIONAL CO., LTD.

## 生活家電・雑貨：生活家電・雑貨、家具寝具 等



ネッククーラー



寝具（ベッド）



キッチン用品



生活家電



家具

THANKO  
Interior Office One

MIYAKO  
Corporation

# 4つの事業体制の強み

ニッケ グループ



## 事業ポートフォリオ戦略

衣料繊維のユニフォーム事業と人とみらい開発の不動産開発・商業施設運営事業の**安定した収益基盤**から生み出すキャッシュフローを活用し、機敏に商機を捉える事ができる産業機材事業、生活流通事業等に**成長投資（M&A等）**を行う。

### 安定収益基盤

#### 第1の事業の柱

- **ユニフォーム事業**：中学校・高校の学生服生地で約50～60%のシェアがあり、衣料繊維事業の営業利益の約7～8割を占めている。

#### 第2の事業の柱

- **商業施設運営・不動産開発事業**：賃貸収入（商業施設運営でのテナントからの賃貸収入、オフィスビル・土地等の不動産賃貸収入）が人とみらい開発事業の営業利益の約7～8割を占めている。

## セグメント別業績（5年推移）



(単位：百万円)		2021/11月期	2022/11月期	2023/11月期	2024/11月期	2025/11月期
衣料繊維	売上高	29,872	29,735	31,359	31,557	30,282
	営業利益	2,749	3,234	3,323	3,455	2,645
	営業利益率	9.2%	10.9%	10.6%	10.9%	8.7%
	ROIC	6.1%	7.0%	6.8%	6.5%	4.5%
産業機材	売上高	20,390	23,853	24,713	30,836	35,177
	営業利益	1,235	1,952	1,586	1,972	2,875
	営業利益率	6.1%	8.2%	6.4%	6.4%	8.2%
	ROIC	3.6%	5.8%	4.5%	4.9%	6.2%
人とみらい 開発	売上高	34,059	34,938	32,870	26,488	26,679
	営業利益	6,115	6,151	7,086	6,977	6,772
	営業利益率	18.0%	17.6%	21.6%	26.3%	25.4%
	ROIC	16.1%	16.6%	22.8%	20.1%	18.7%
生活流通	売上高	18,685	16,802	20,799	22,527	23,199
	営業利益	1,410	953	555	847	1,051
	営業利益率	7.6%	5.7%	2.7%	3.8%	4.5%
	ROIC	10.1%	5.5%	2.9%	4.6%	6.3%
その他 調整	売上高	3,612	3,720	3,755	4,028	4,038
	営業利益	-1,610	-1,584	-1,536	-1,611	-1,432
合計	売上高	106,619	109,048	113,497	115,438	119,377
	営業利益	9,900	10,707	11,016	11,640	11,913
	営業利益率	9.3%	9.8%	9.7%	10.1%	10.0%
	ROIC	6.1%	5.5%	5.9%	6.7%	5.6%

# 資本政策・株主還元方針



考え方

- ✓ 成長投資と安定的な株主還元のバランスを志向する。
- ✓ 成長投資については、研究開発投資、M & A 投資、設備投資、人財投資など、中長期的な企業価値の向上の観点から積極的に実行する。

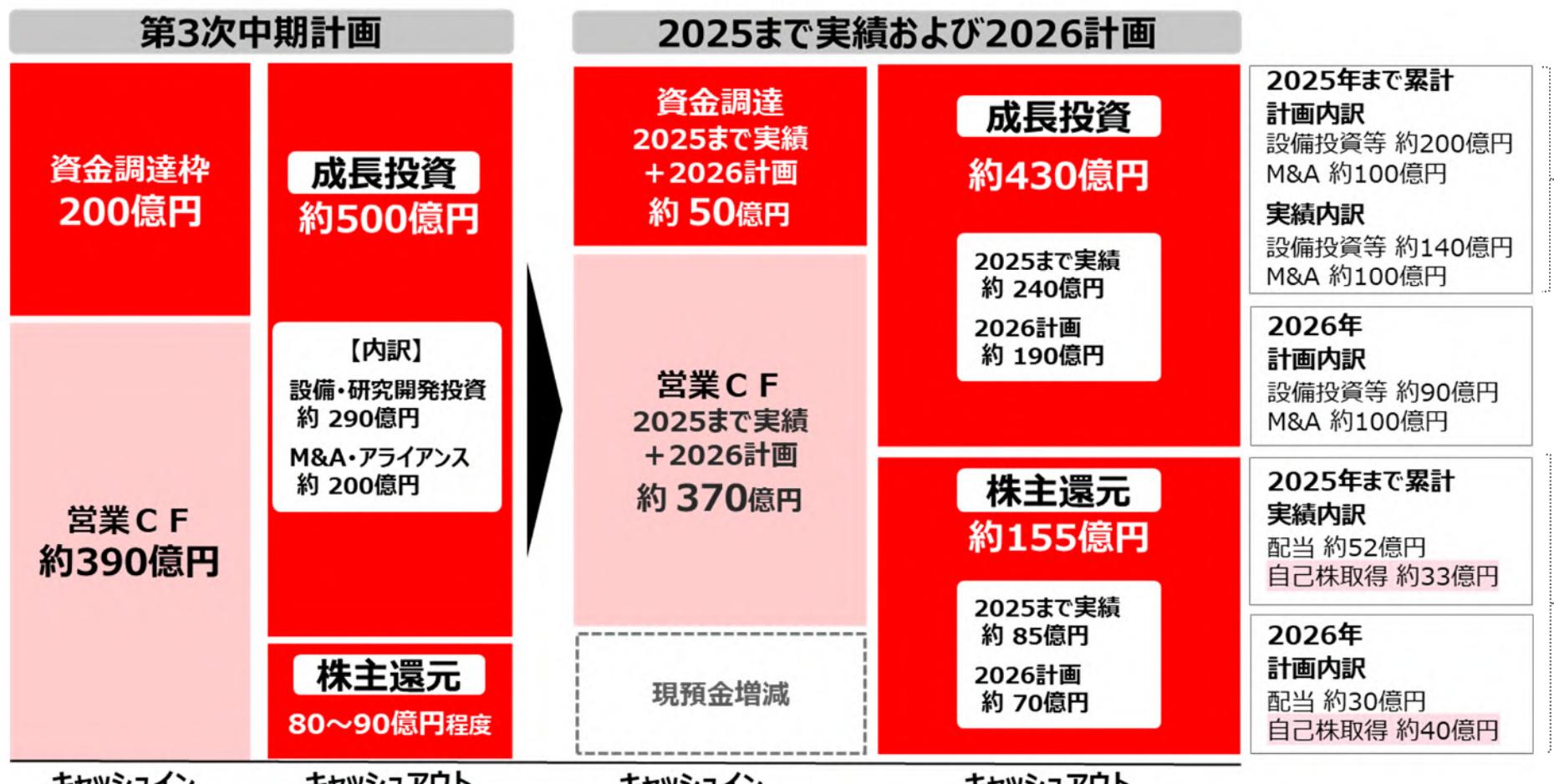
株主還元  
方針

- ✓ 減配しない「累進配当」を基本とする。
- ✓ 配当性向については、現行の 30% 目安から順次切り上げ、第 3 次中計最終年度での 35% を目指す。
- ✓ D O E (株主資本配当率) を指標とし、第 3 次中計最終年度での 2.5% を目標とする。
- ✓ 投資の進捗も鑑みて機動的な自己株式取得を行い、総合的な株主還元を充実させる。

# キャッシュ・アロケーション（第3次中計期間）

 グループ

第3次中計の成長投資計画約500億円に対し、現時点では約430億円に留まる見通し  
差分の70億円については、中計の方針通り「投資の進捗を踏まえた機動的な自己株取得」  
(約73億円)により株主還元を強化



※ 設備投資・M&A計画数値は状況に応じて変動する可能性があります。



# ニッケグループのマテリアリティ

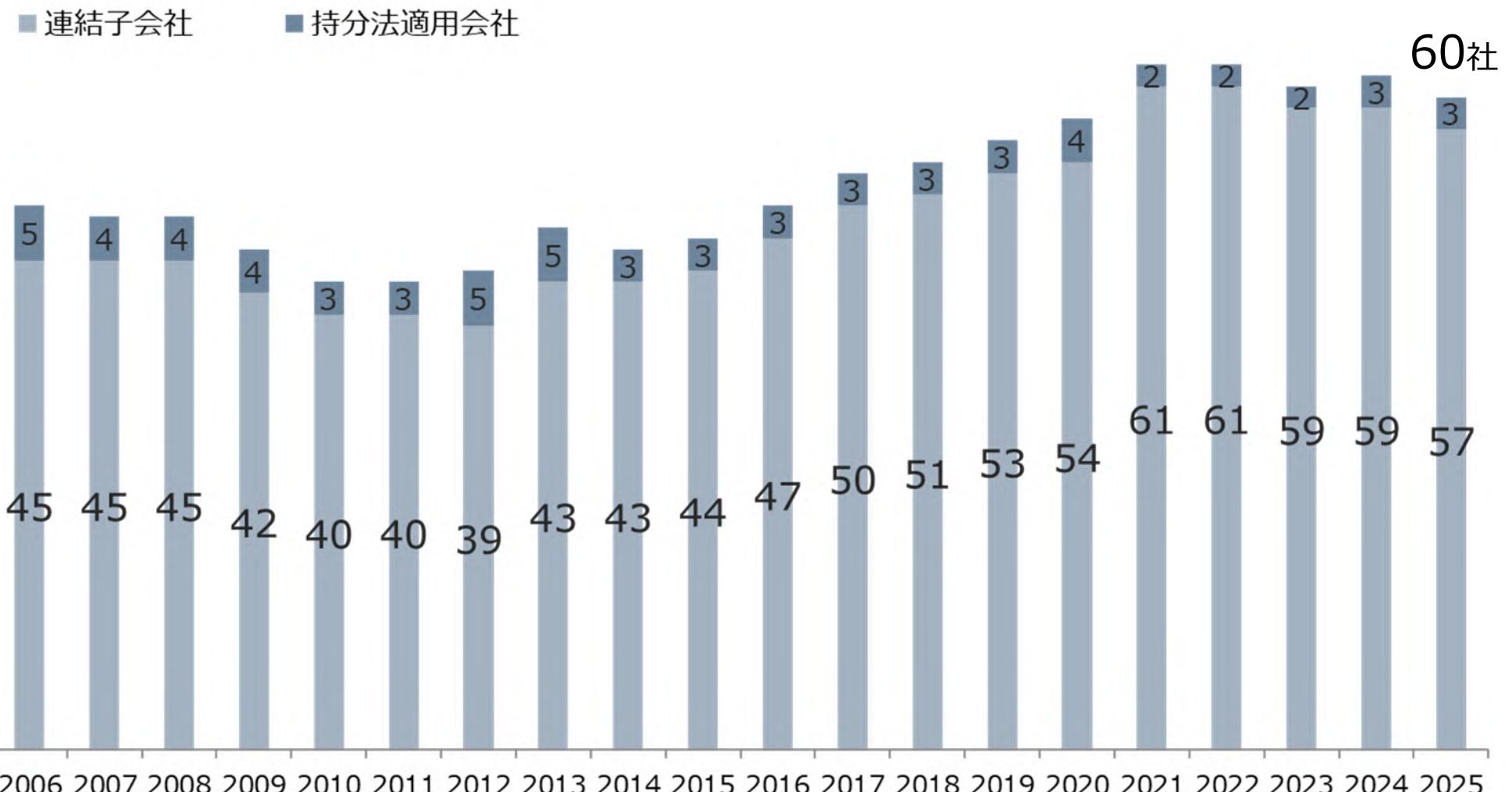


ニッケグループでは4つのマテリアリティを特定し、各々の対応方針を定めた上で事業を推進していきます。

社会的な課題やニーズ	マテリアリティ	対応方針	関連するSDGs
●少子高齢化社会への対応 ●ウェル・ビーイングの実現	健康・快適への取り組み 快適な暮らしのサポート	<p>ショッピングセンターを拠点とした地域密着型の複合的なサービスの展開により、地域の活性化と利便性の高い街づくりに貢献する。</p> <p>利用者のニーズにあわせた介護、保育関連施設の運営により、仕事と育児・介護の両立を支援するとともに利用者のQOLの向上に貢献する。</p> <p>織維の技術を活用し、身体への負担が少ないメディカルデバイスや、再生医療・創薬の研究を支える細胞培養基材を開発し、人々の健康とQOLの向上に貢献する。</p>	 
●製品の安全性確保 ●高品質な製品の安定供給	安全・安心への取り組み バリューチェーンのマネジメント	<p>お客様に満足していただける製品を提供するために、品質管理体制の継続的な見直しと強化を図る。</p> <p>原材料の産地や品質を特定できるしくみを構築することで、お客様へ提供する商品の安全性を確保する。</p> <p>バリューチェーンの最適化を図ることで、安定的に商品を提供し続ける。</p>	 
●気候変動への対策 ●エネルギー問題への対応 ●大量生産・大量消費からの脱却	環境への取り組み 持続可能な地球環境への貢献	<p>環境配慮型商品の研究開発と販売により、環境負荷の低減に貢献する。</p> <p>製品の再利用や再生材料の使用による循環型社会の推進に貢献する。</p> <p>太陽光発電を通じ再生可能なクリーンエネルギーを提供する。</p> <p>地球環境の保全を最重要の経営課題と認識し、環境保全体制の継続的な見直しと強化を図る。</p> <p>各事業において省エネルギー施策を推進する。</p>	    
●コンプライアンスの遵守 ●人権の尊重 ●ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 ●健康経営の実践	経営基盤の強化	<p>企業倫理規範の実践を自らの重要な役割と認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築し、率先垂範してニッケグループ内にその周知徹底と定着化を図る。</p> <p>国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき、国際的に認められた人権規約と労働基準を支持・尊重し、人種、性別、宗教、性自認、障がいの有無等により不当に扱われることのないよう相互の理解と尊重に努め、社会から信頼される企業グループづくりに努める。</p> <p>広く人財を求め、多様な「知」を結集して事業にイノベーションをもたらす。</p> <p>活き活きと生命力あふれた企業を目指し、従業員の健康維持・向上に努める（ニッケ健康宣言）。</p>	   

## ニッケグループ連結会社数推移

ニッケ グループ

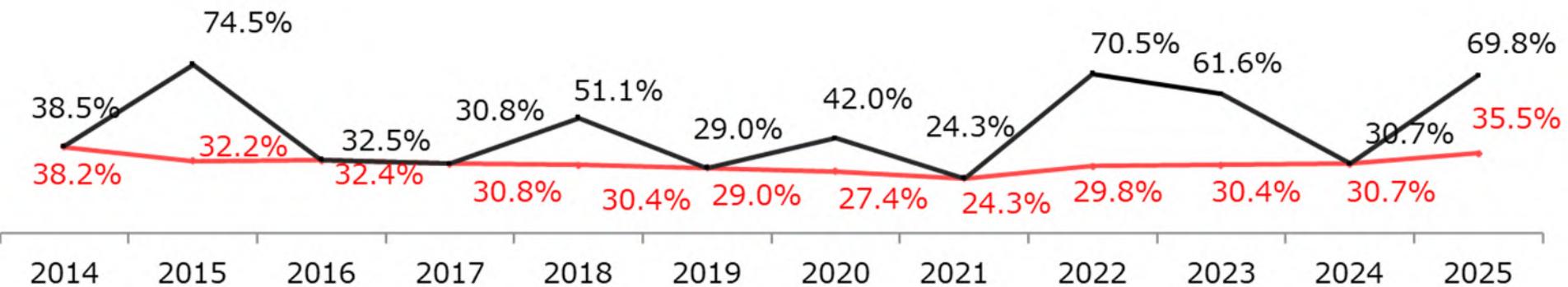


※各年11月末時点でのニッケグループ会社数

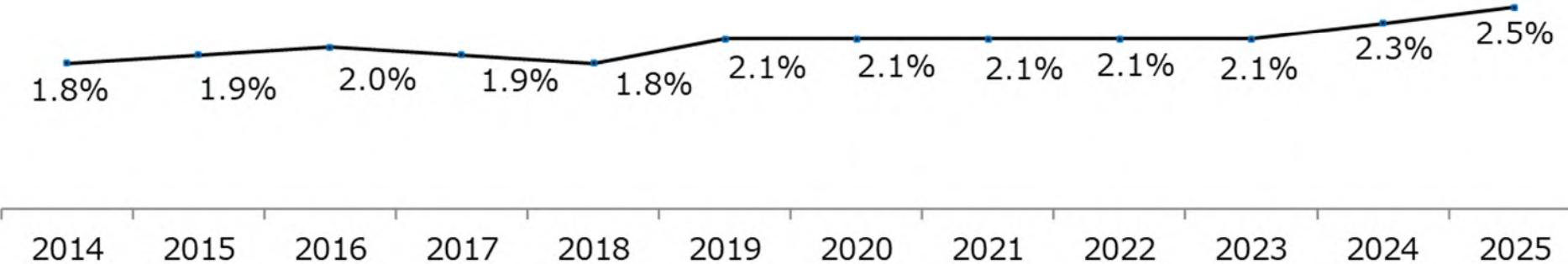
# 配当指標



—配当性向 —総還元性向



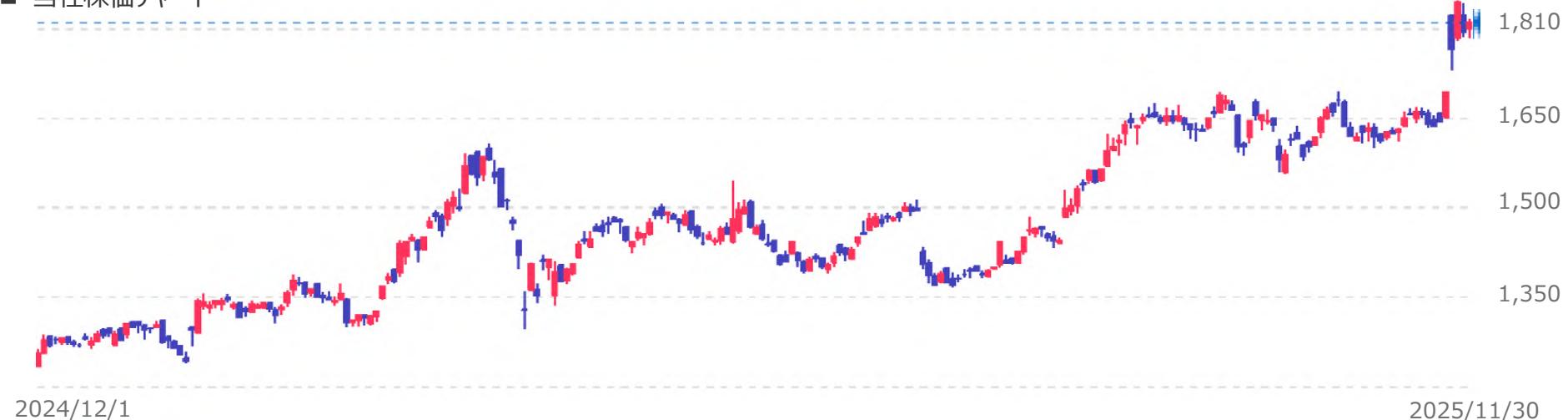
— 株主資本配当率 (DOE)



## 株価チャート 期間：2024/12/1～2025/11/30（直近1年）

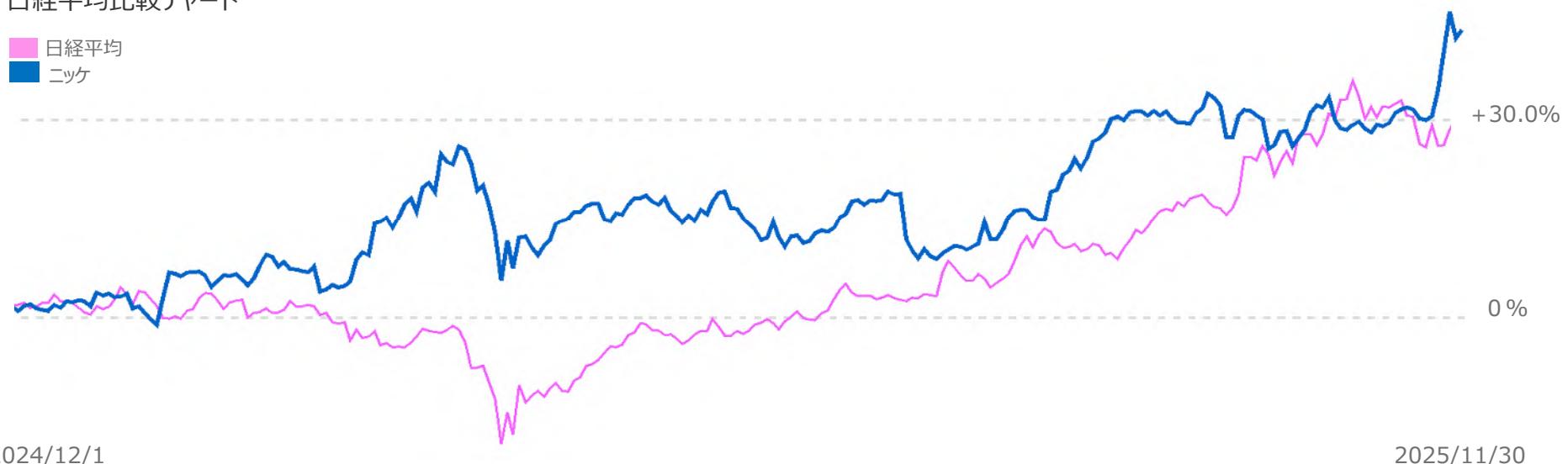


## ■ 当社株価チャート



## ■ 日経平均比較チャート

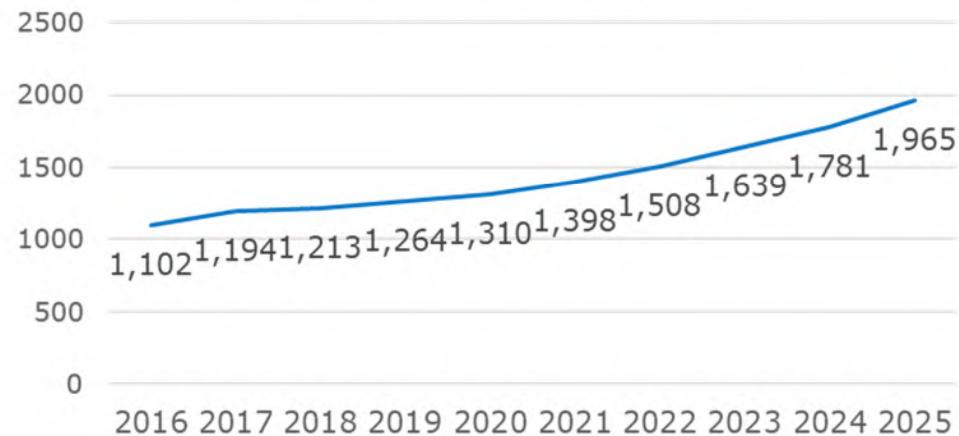
■ 日経平均  
■ ニッケ



## ※主要な経営指標①



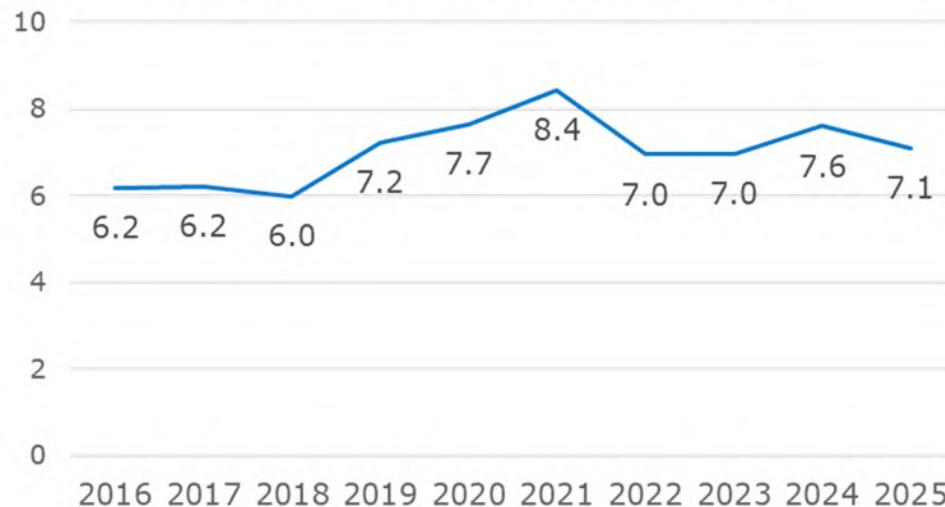
1株当たり純資産：BPS（円）



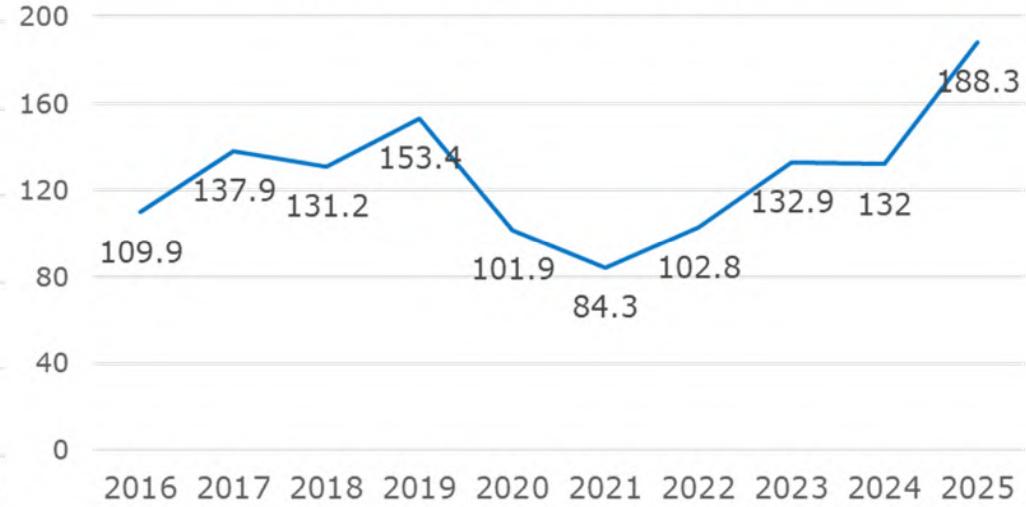
1株当たり当期純利益：EPS（円）



自己資本当期純利益率：ROE（%）



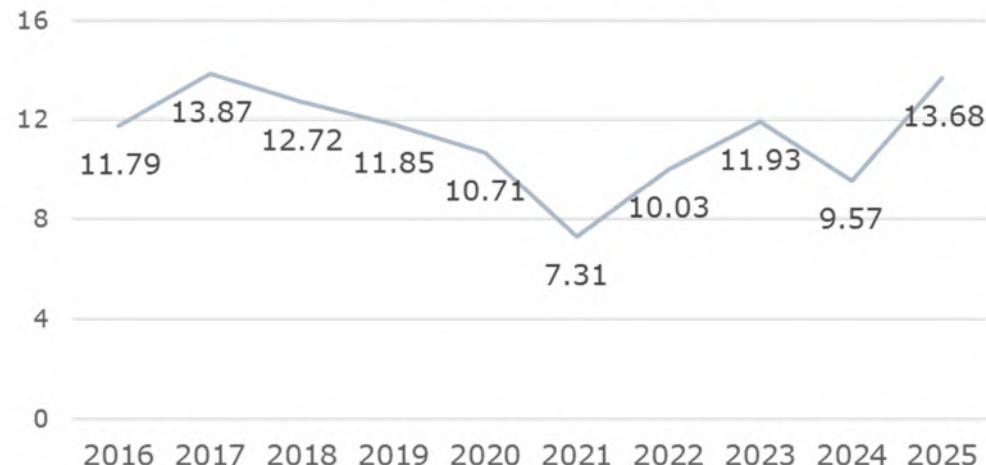
株主総利回り：TSR（%）



## ※主要な経営指標②



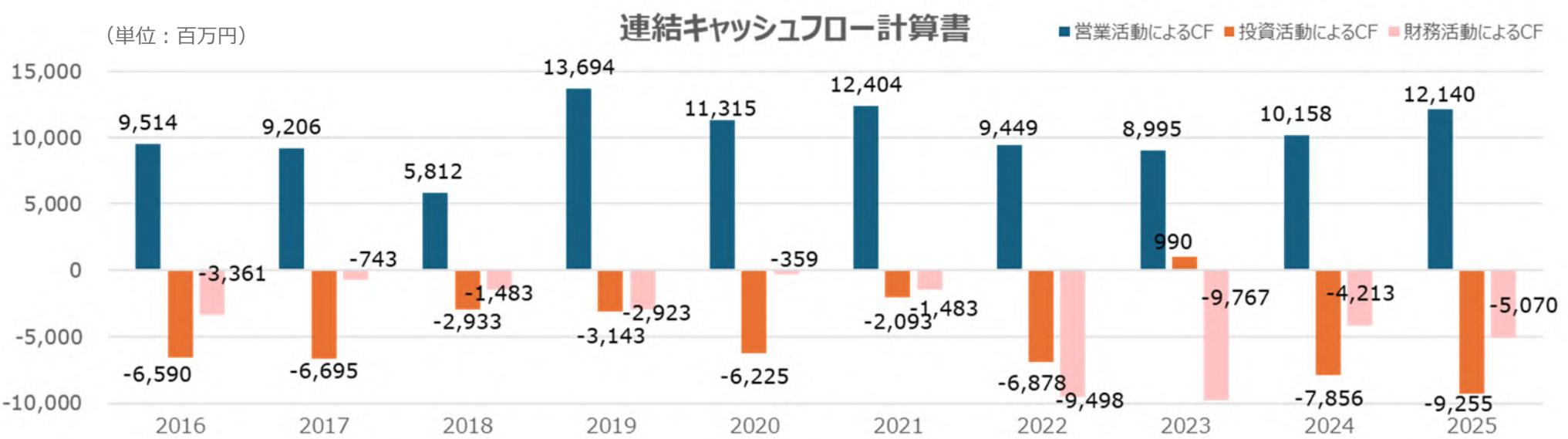
株価収益率：PER（期末）



株価純資産倍率：PBR（期末）



(単位：百万円)



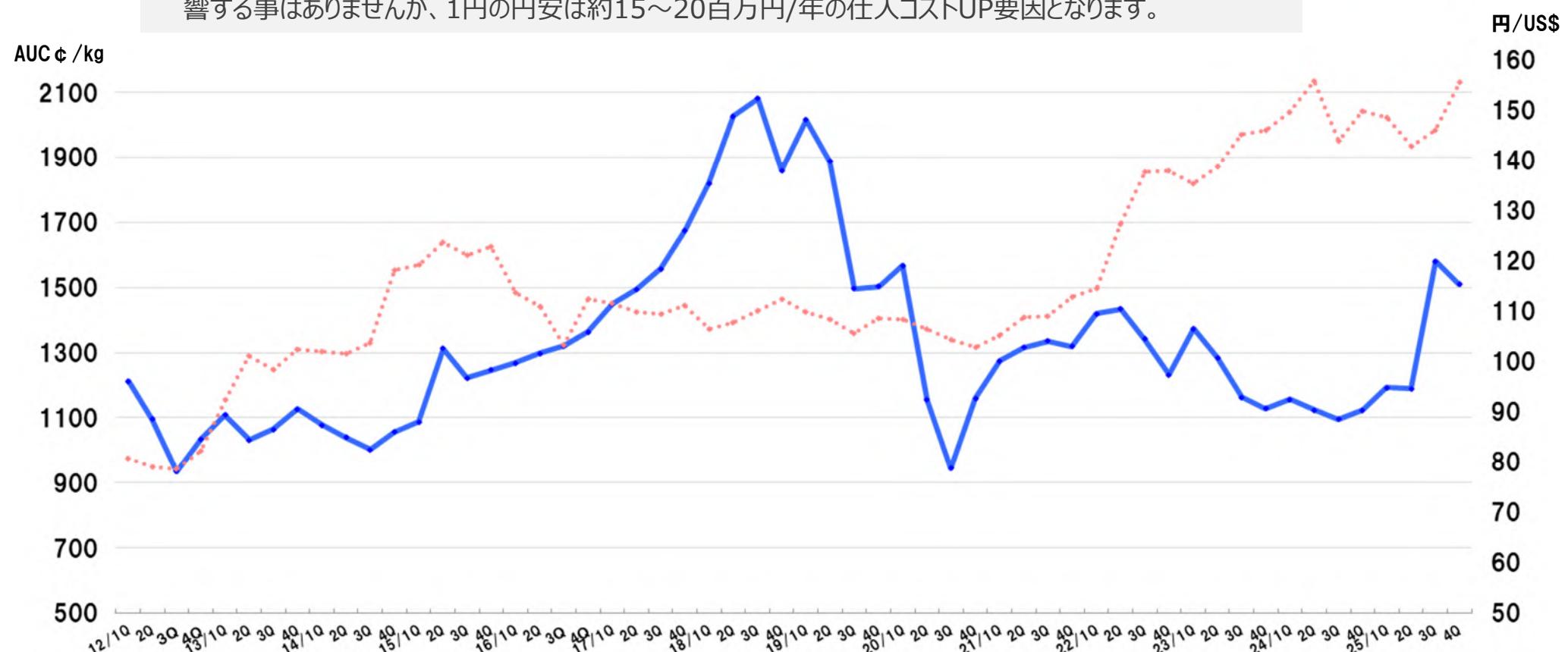
## ※羊毛原料相場・為替相場の推移



## EMI（豪州羊毛東部市場価格指標）推移

## (参考) 為替の影響

- 衣料繊維事業では主原料の羊毛を海外から購入額ベースで年間、約15～20百万ドル輸入しています。
- 為替予約の実施や一定数の在庫を確保している為、足元の為替の変動がダイレクトに当期の業績に影響する事はありませんが、1円の円安は約15～20百万円/年の仕入コストUP要因となります。





## 本資料の取り扱いについて

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画に関する記述等は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。